

車体 NEWS

WINTER 2015 冬

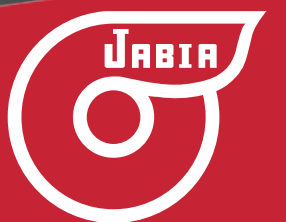
JAPAN AUTO-BODY INDUSTRIES ASSOCIATION INC.

CONTENTS

巻頭言	2
NEWS 特集	
秋季会員大会を開催	3
講演会「国内トラック・バスの需要動向と ドライバー不足の現状と今後について」	5
第44回東京モーターショー2015に出展	7
BUS WORLD視察報告	9
2014年度会員企業の売上高/従業員調査まとめ	11
NEWS FLASH	
本部だより	12
部会だより	15
支部だより	18
官公庁だより	19
会員情報	22
月度活動状況	23
Net Work	
vol.81 株式会社永光自動車工業	27

VOICE

(株)サンゲツ	29
セントラル硝子(株)	30
そこが知りたい 第27回「まち・ひと・しごと創生」	31
働くクルマたち 第11回 エア圧送式粉粒体運搬車	33
Coffee Break	35
我が社の元気人	37
DATA FLASH	
2015年4月～9月 会員生産状況概要	38
編集後記	41



グリーン経営で実現できます!

グリーン経営とは…

「環境に配慮した会社経営」で、企業の社会的責任として環境面にも積極的に取り組む会社経営です。
国土交通省をはじめ各業界団体の協力を得て、エコモ財団が推進しています。

★環境にやさしい取り組みをしている
運輸事業者を是非ご利用下さい!

運輸部門のグリーン経営認証とは…

トラック、バス、タクシー、倉庫、港湾運送、内航海運、旅客船の事業ごとに「環境にやさしい取り組みをしている運輸事業者」を認証する制度がグリーン経営認証です。

エコドライブや自動車の点検整備、エネルギー効率の向上、廃車・廃棄物の発生抑制、適正処理、リサイクルの推進などの具体的な環境活動が評価され約7,300事業所が認証を取得しています。

「認証基準」、「取組事例」、「講習会開催予定」など詳細は **グリーン経営** で **検索**

*グリーン経営認証専用ホームページ <http://www.green-m.jp/>

輸配送をしていますか?

環境にやさしい



トレーラは、新時代へ

トレーラメーカーとして何ができるか。

それは「お客様の声」から誕生します。

トレクスの新基準トレーラが今、走り始めます。



新基準センターアクスル式フルトレーラ（連結全長21m仕様）

フルトレーラについて

長大フルトレーラ連結車による輸送効率化事業の全国展開により、
『連結全長21m』へ通行許可基準見直し。

荷室容積 **111.1³m** 荷室長合計17.54m

12.7%アップ (当社従来車比)



新基準ウイングセミトレーラ（トレーラ車長13m仕様）

セミトレーラ（特例8車種）について

『車両総重量36トンまでを基準内』&『トレーラ単体長さ13m』へ保安基準改正。
『2軸トラクタ駆動軸重制限を11.5トン』&『連結全長18m』へ通行許可基準見直し。

荷室容積 **76.7³m** 荷室長最大13.67m

7.8%アップ (当社従来車比)

日本トレクス株式会社

本社・本社事業所

〒441-0193 愛知県豊川市伊奈町南山新田350番地 TEL050-3367-7448 FAX0533-78-3628

第一特販課 TEL050-3367-7524
第二特販課 TEL050-3367-7524
特装営業部 TEL050-3367-7523
部品営業課 TEL050-3367-7453
北海道支店 TEL050-3367-7505
東北支店 TEL050-3367-7509

関越支店 TEL050-3367-7513
新潟営業所 TEL050-3367-7517
千葉支店 TEL050-3367-7525
東京支店 TEL050-3367-7520
横浜支店 TEL050-3367-7519
名古屋支店 TEL050-3367-7527
静岡支店 TEL050-3367-7532

富山支店 TEL050-3367-7535
大阪支店 TEL050-3367-7543
高松営業所 TEL050-3461-6039
西日本特販課 TEL050-3367-7548
広島支店 TEL050-3367-7548
九州支店 TEL050-3367-7552
南九州支店 TEL050-3367-7557

巻頭言

部会創立50周年を 迎えて

資材部会長 吉川 徳雄
天龍工業(株)・代表取締役社長



資材部会部会長を仰せつかっております天龍工業(株)の吉川です。

日頃より部会員の皆様には、部会事業に対しご支援、ご協力をいただき厚く御礼申し上げます。また架装メーカーである正会員の皆様には、資材部会への多大なるご支援、ご理解を賜り、誠にありがとうございます。この場をお借りして心より御礼申し上げます。

資材部会50周年

資材部会は皆様のご支援、ご協力をいただき、本年50周年を迎えました。

現在、部会の記念事業として部会の年史制作に取り組んでおります。過去の資料を振り返りますと、これまで部会事業に携わってこられた方々の思いが伝わり、胸を熱くすることが多々あります。

車体工業の近代化が進むにつれて、架装メーカーと車体資材部会メーカーとの強固な協力体制がもたらされ、1965年（昭和40年）に立松車体工業会会長より車体資材部品の製造業者を準会員に迎え入れることが提唱され、資材部会が発足となりました。当時の会員数は約80社でした。初代部会長には当時の泰平電機(株)社長の高木氏が就任されました。部会組織は各業種から選出された約20名による幹事会が構成され、特装、特種、トラック、バス、小型の5部会に対応した形での分科会も設置されました。

ネットワーク活動

資材部会を構成する会員会社は中小企業から大企業に至るまで様々で、業種も多岐にわたっており、まとまりにくかったため、1996年には当時の福西部会長により「ビジネスネットワーク」が提唱され、分科会も内装、電装機器・装置、車体用部品、ゴム・樹脂、材料、塗料・フィルムの6分科会に変更しグループによるネットワーク活動に入りました。更に2001年には特別委員会を設置して分科会活動を集約し、内装分科会、部品分科会、材料分科会の3分科会にまとめ現在に至っております。

ネットワーク活動の主なものは各部会との専門分野を元とした共同事業です。2015年度には、トラック部会

と荷台のシーリング材の比較試験の取組みに関する提言、「Uボルト」の共通化、推奨品の選定、推奨規格の設定、バン部会と「再帰反射材の貼付方法」のJABIA規格化、またバス部会のワンマン機器委員会とバスにおけるJABIA規格の制定、改定等を随時行っております。

資材部会会員のPR活動としては、機関誌「車体NEWS」を活用して会員会社と製品の紹介を継続して取り組んでいます。その他、難燃性内装材のJABIA素材登録では燃焼性試験実態調査を推し進め、本年で全19事業者の調査が完了予定となり、難燃材製品の安全に対する信頼をしていただけるよう取り組んでおります。

BUS WORLD

本年はジェイ・バス協会会殿との合同でコルトレイクにて開催されたBUS WORLD(※)の視察も実施し、中国製バスの欧州市場での台頭や電気バス等の欧州の環境への取組みなどを目の当たりにしました。

弊社のことで恐縮ではございますが、このBUS WORLDには唯一の日本企業として出展させていただきました。

グローバル化が叫ばれて久しい昨今、バスの業界においても海外調達の波は確実に押し寄せてきており、世界目線から見た我々の立ち位置を再確認し、社内の若い世代が世界観に触れる良い機会となりました。世界の中において十分通用する部分、学ばなければならない部分、改めて学ぶことの多い初出展となりました。

最後に、部会活動として事業計画に基づく活動を推進し、他部会との交流も随時実施して行き、資材部会の皆様のご協力を頂きながら、バス業界の発展に寄与して行きたいと考えております。

今後、更に架装メーカー7部会の方々と連携を密にし、これから先10年、50年と大きな「ビジネスネットワーク」を築いていけるよう取り組んで参ります。

※ BUS WORLD … ベルギーのコルトレイクで奇数年の秋に開催されるバス並びにバス関連の部品・用品の見本市

2015年度 秋季会員大会を開催



渡邊会長

2015年度秋季会員大会が、第44回東京モーターショー2015に合わせて10月30日、東京ビッグサイトに隣接する東京ベイ有明ワシントンホテル「アイリス」にて開催され、125社261名の会員が参加した。

渡邊会長の挨拶に続いて、網岡副会長による乾杯で懇親会が始まり、終了後は東京モーターショーを見学した。



会長あいさつ

本年の通常総会で、皆様のご承認をいただき、車体工業会会長を務めております渡邊でございます。

会員の皆様には、日頃から当会の活動にご支援・ご協力をいただき、誠にありがとうございます。

また本日はご多用中にもかかわらず、このように多くの会員の方々にご出席をいただき、秋季会員大会を開催することができましたことに心より感謝申し上げます。

さて、本年度4月から9月の当会会員生産台数累計は、117万5千台、前年比105%となっています。カーメーカーからの委託生産車を除く当会特有車種を見ますと震災復興関連車種等により、87千台、前年比102%となっており、前年並みの状況です。乗用車の需要回復は遅れておりますが、当会特有車種につきましては、下期の生産台数も前年並みで推移するのではないかと思います。

それでは、当会事業計画の進捗状況について少しお話しさせていただきます。

今年度は、

「安全対応活動の推進」

「環境対応自主取組みの推進」

「中小企業支援活動の推進」

「活性化活動の継続推進」

を主要活動4項目と位置づけ活動しております。

まず第1項目の「安全対応活動の推進」につきましては、番号標表示に関する基準案への対応に関し、関連団体とも連携し概ね当会要望案が反映される見通しとなりました。また、突入防止装置に関わる協定規則R58第3次改訂後の法規対応についても計画どおり進捗しております。



網岡副会長

第2項目の「環境対応自主取組みの推進」では、環境適合ラベル取得の推進に取り組んでおります。会員の皆様とのコミュニケーション、更に部会の協力も得ながら個社の課題解決にも取り組み、取得機種は9月末現在、昨年度から10機種増の203機種となりました。

これは会員の皆様のご理解とご協力のお陰であり、お礼申し上げます。また、これまで以上に会員の皆様が環境基準適合ラベルを「取得して良かった」と実感していただける、環境基準適合ラベルのプレゼンス向上策を検討し、年度末の実現に向け取り組んでいるところです。

そして継続して取り組んでおります、CO₂、VOC、産業廃棄物の削減は、いずれも皆様の協力のおかげで、目標を達成出来る見込みでございます。

第3項目の「中小企業支援活動の推進」では、税制改正や規制改革などの各種要望を提出し、その実現に向け関係団体と連携し取り組んでおります。また、安全衛生活動では会員の皆様に参考としていただける情報発信に向けた取組みを推進しております。

最後に「活性化活動の継続推進」では、車体業界の認知度向上を図るためプレスリリースの計画的発信とともに、当会活動のPRを行っております。また、3年目を迎えた



NEWS 特集

「チャレンジ5活動」はこれまでの取組みを踏まえ、異業種からの学びをどのように生かしていくかなど、計画どおり進捗しております。

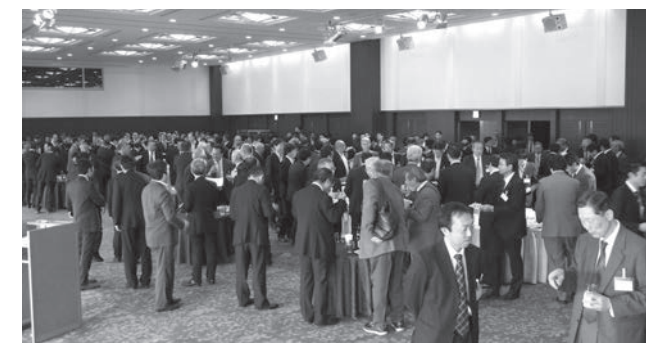
以上のように、本年度事業計画は、概ね計画どおり進捗していると判断しております。引き続き皆様方のご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

さて、本日は「第44回東京モーターショー2015」の開会日であり、先程、私も開会式に出席してまいりました。今回のモーターショーは、「きっと、あなたのココロが走り出す。」“Your heart will race.” をテーマに11月8日まで開催されます。このショーが国内需要喚起の更なるきっかけになることを願っております。

我々の車体部門は、東ホール屋内に3社出展し、東ホール屋外には13社14台の「働くくるま」合同展示場を設置しました。後ほど、会場で確認いただけますようお願いいたします。

最後になりましたが、会員各位のご健勝とますますのご発展を祈念いたしまして、開会のご挨拶にかえさせていただきます。

本日は誠にありがとうございます。





NEWS
特集



講演会

国内トラック・バスの需要動向と ドライバー不足の現状と 今後について

2015年10月15日、日本自動車会館「くるまプラザ」において、日野自動車株式会社 国内企画部の小鷹好夫氏をお招きし、「国内トラック・バスの需要動向とドライバー不足の現状と今後について」ご講演いただいた。なお、本講演への関心が高く、当日は128名と多くの会員が参加した。

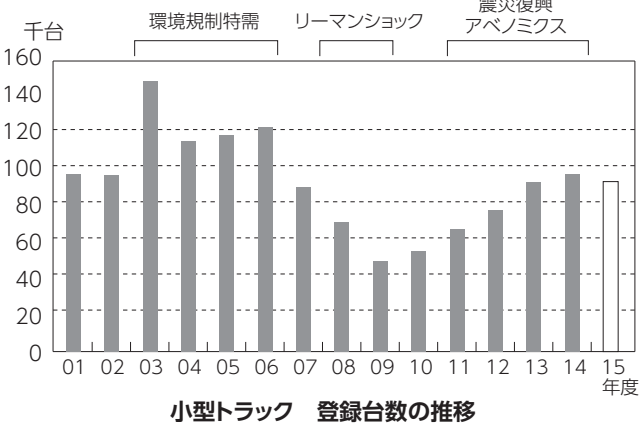
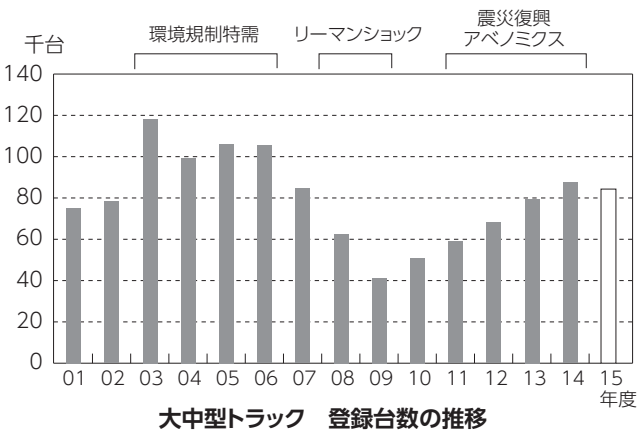
日野自動車株式会社
国内企画部 商品計画室
商品戦略グループ グループ長
小鷹 好夫 氏

国内トラック、バスの需要について

1. 登録台数の推移

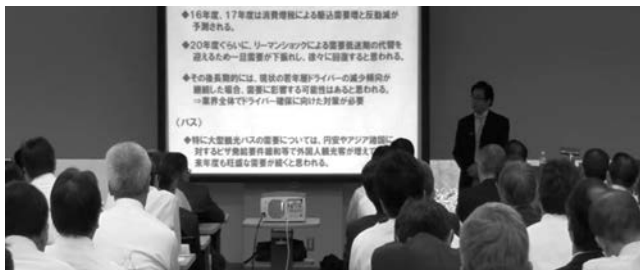
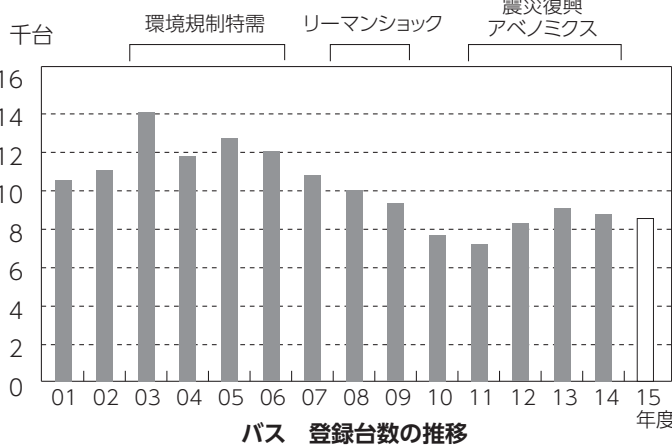
ここ10年の市場環境として、2003～2006年度に環境規制による需要の盛り上がり、2008～2010年度はリーマンショックによる需要低迷、2011年度以降は震災復興、アベノミクスによる経済対策で需要が盛り上がってきている。

2016・2017年度は10%への消費増税前後の駆け込み需要



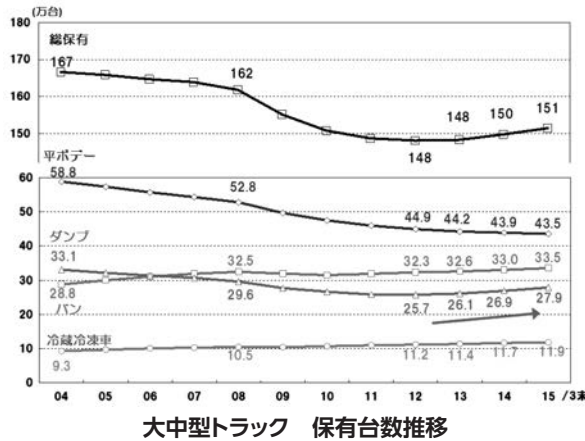
と反動減を想定している。その後、2020年度の前後2、3年はリーマンショック後の需要低迷期の代替期を迎えることから、一旦需要が下振れし、その後徐々に回復していくのではないかと考えている。

バス需要に関しては、輸送人員の減少傾向もあり、需要は低迷してきたが直近では持ち直しの動きがある。なかでも『爆売れ』と話題にもなっている大型観光バスは、円安・アジア諸国に対するビザの発給要件の緩和等により外国人観光客が増えており、旺盛な需要が続くのではないかと考えている。



2. 保有台数の推移と今後の見通し

保有台数の推移の特徴を架装別に見た場合、長期的に総保有の減少の主要因となっていた平ボデーとダンプの保有が、下げ止まりあるいは増加に転じていることが見て取れる。リーマンショックで大きく減少した保有が、震災



トラックドライバー不足の現状と今後について

1. トラックドライバー不足の現状と課題

ドライバー不足の問題は非常に深刻化している。ドライバー数の推移を見ると、2006年度をピークに減少傾向である。ドライバーの年齢構成を見ると、29歳以下のドライバー比率は、1993年度の約38%に対し、2011年度では約9%と大幅に減少している。

2. 業界のイメージアップと労働時間短縮の取組み

トラックドライバーが減っている原因は、少子化や免許制度改正のほか、交通事故の危険、長時間労働、積み降ろし作業等荷役の負担などの、いわゆる3K業界というイメージがあることも、トラックドライバーが敬遠される大きな要因である。交通事故の危険への取組みはシャシ主体の、そして長時間労働、荷役の負担増への取組みはシャシ+上物の課題となっている。

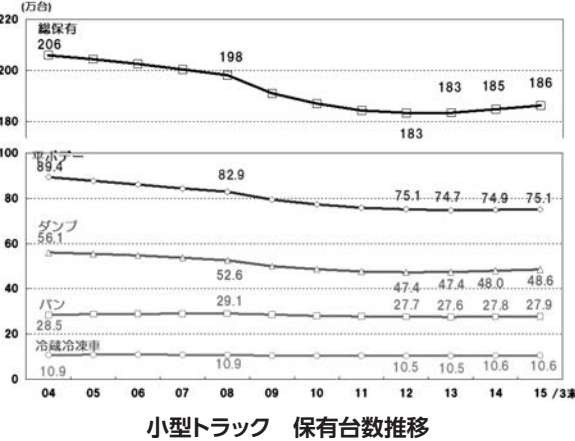
日野自動車では、「トントントントン、日野の2t」のCM等でイメージの向上を図ったり、最新の安全技術の採用等でトラック運転の安全性向上に努めている。

ドライバーの確保には労働環境の改善も大変重要であり、運送事業者、荷主、学識等による「長時間労働改善協議会」が全国各地で始まっている。

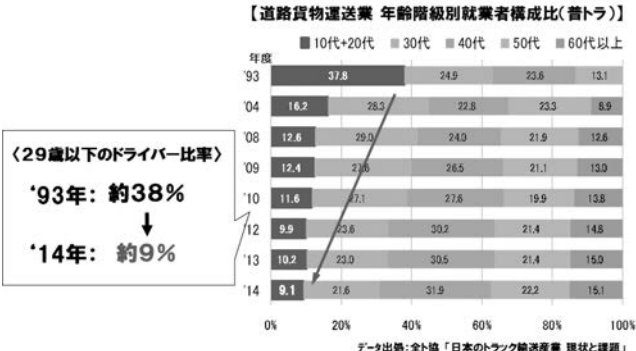
3. 準中型免許制度への期待

現制度では、18歳は5t未満に運転が限られているため、高卒でドライバーになる障壁となっている。これを7.5tまで広げる「準中型免許制度」が2017年3月頃施行される見込みとなり、行政側も教育・指導に力を入れている。

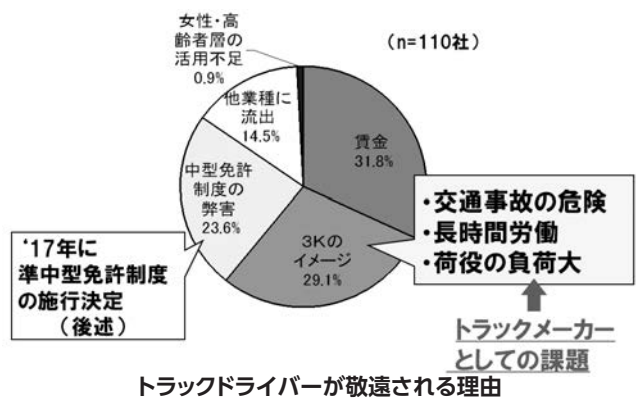
復興・国土強靱化計画により公共事業の予算がリーマンショック後の時期より増加してきたこともあり、保有台数も増加していると考えられる。この傾向は今後2、3年は続くと思込まれる。



若年層トラックドライバーの減少による高齢化が顕著



トラックドライバーの年齢構成



トラックドライバーが敬遠される理由

現状の免許制度と改正後のイメージ

	GVW 3.5t	5t	7t	7.5t	8t	11t	14t	25t
現状	普通 (18歳) (既得権者①)	普通 (18歳) (既得権者①)	普通 (18歳) (既得権者①)	普通 (18歳) (既得権者①)	普通 (18歳) (既得権者①)	普通 (18歳) (既得権者①)	普通 (18歳) (既得権者①)	普通 (18歳) (既得権者①)
改正後	普通 (18歳) (既得権者②)	普通 (18歳) (既得権者②)	普通 (18歳) (既得権者②)	普通 (18歳) (既得権者②)	普通 (18歳) (既得権者②)	普通 (18歳) (既得権者②)	普通 (18歳) (既得権者②)	普通 (18歳) (既得権者②)



The 44th TOKYO MOTOR SHOW 2015

第44回東京モーターショー2015に出展



「働くくるま」が大集合！
生活のそばにいつも「働くくるま」



■(株)タダノ
車両運搬車
「スライドキャリヤ エスライドハイブリッド SS-38F」



■KYB(株)
コンクリートミキサー車
「MR5040EL」



■極東開発工業(株)
電動式1台積車輛運搬車
「フラット®ZeroIIハイブリッド」
(参考出品)



■(株)矢野特殊自動車
防汚アルミ外板仕様パネル
大型冷凍車
「美Bi-MAX」



■(株)花見台自動車
車両運搬車
「セフテローダ・クロスオーバー」



■日本トックス(株)
冷凍バンセミトレーラ
「フラットパネルバンセミトレーラ」



■(株)浜名ワークス
ウイング・フルトレーラ
「ダブルデッキ・ウイング・フルトレーラ C.A.T. 21」



■日通商事(株)
伸縮式ステアリング装置付き
セミトレーラ
「エクステンダブルセミトレーラ」



■須河車体(株)
ボトルカー
「ラクニーX」



各展示車両前で
ナレーターが中継



「働くくるま」のペーパークラフト
ワークショップを開催。連日多くの
お子様が参加。



DJブースと各車両前の
ナレーションを中継して
放映



大型LEDモニター
会員会社紹介、
安全啓発ビデオの放映等



■日本フルハーフ(株)
ウイングフルタイプセミトレーラ
「新法規対応フルハーフウイング エーストレーラ」
(参考出品)

■日本フルハーフ(株)
温度管理車
「電気式冷凍機
「e-CHILNO」搭載
温度管理車」
(参考出品)



■東邦車輛(株)
ウイングセミトレーラ
「スマートウイング®
温度管理仕様」
(参考出品)



■新明和工業(株)
スライドボデー付ダンプ
トラック
「ローダーダンプ」



■八千代工業(株)
軽救急車
「こまわり救急」
(参考出品)

2015年度BUS WORLD 並びに自動車関連施設視察報告書

2015年10月16日～23日

NEWS 特集



ジェイ・バス(株)、ジェイ・バス協力会、並びに日本自動車車体工業会資材部会は合同で、ベルギーのコルトレイクで開催のBUS WORLD並びに欧州自動車関連施設の視察を10月16日より10月23日までの日程で実施した。BUS WORLDは2年に1度コルトレイクで開催されるが、今回の視察は2005年の実施以来、実に10年ぶりのことであり、総勢31名(内当会会員19名)が参加をした。



BUS WORLD視察



BYDの電気バス

BUS WORLDはバスとコーチの展示会である。(※「コーチ coach」とは、イギリス英語で長時間・長距離移動等に適した、より快適な設備(アコモデーション)を持つものを指す)ベルギーのコルトレイクで1971年に始まり、以後2年に1度開催され、今回が23回目の開催となった。参加国は36か国で411社が出展しており、ドイツのバス車体メーカーであるMANやNEOPLAN、EVOBUSなど欧州のバスを中心に展示されている。ちなみにトルコ、中国、ロシア、インドでの開催もあるが、地域毎に出展企業の顔ぶれが地元寄りに固まる上に、規模的にはコルトレイクが最大ようだ。

今回のBUS WORLDには世界118か国から34,932人が来場した。前回に比べ来場者数は約9%増であり、回数を重ねる毎に増えている。来場者の多くはバス事業者で、各所に商談のスペースが設けられており、展示会と言うよりも見本市の色合いが濃い。



会場見取図

入場してすぐに目にしたのは中国のBYDの電気バスで、入口通路の左右に展示されていた。BYDの電気バスは、既に「ロンドントランスポート」への納入が決まっているとのこと。前日にロンドントランスポートから担当者が来て「ロンドンではゼロ・エミッション(zero emission)でやる」と言っていたと聞く。欧州での環境対策はゼロ・エミッションが至上命題であり、日本の事情とは異なる。それ故にハイブリッド車や燃料電池車ではなく、いわゆる電気自動車への関心が高い。

8ホール868には初出展の天龍工業(株)がブースを設けて、高級サロンバス用のシートを中心に展示されていた。BUS WORLDへの日本企業の出展は開催以来ほとんどなく、今回も天龍工業(株)1社のみであった。



エバスペヒャー社訪問

エバスペヒャー社は1865年にドイツのシュツットガルト近郊のエスリンゲン市に創立。以後、車の空調機器に力を注ぎ、最新鋭のエアコンやエンジンを止めた状態でバッテリーで車内を暖めることができる独立燃焼式エアヒーターを世界の自動車メーカー及び部品メーカーに提供しているほか、直販も行っている。車両の空調機器の分野では世界4大企業のひとつに数えられ、とりわけ独立燃焼式エアヒーターの分野では世界トップクラスのシェアを持っている。

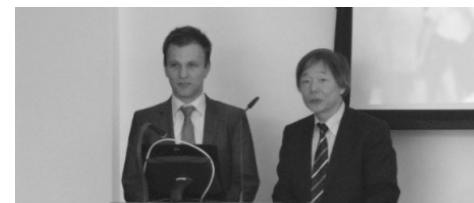
世界19か国の約5,600名の従業員が技術革新にチャレンジしている。特に同社の製品は環境問題に対応しながらも、車両本体の性能を向上させ、かつ快適性と安全性を高めるものである。このエアヒーターはトラックはもちろんのこと、キャンピングカー、乗用車、SUV、特殊車両、バスやヨットにも装着が可能である。

また、建物の上層階の窓から子供がたくさん顔をのぞかせており、後から聞いたところによれば託児ルームとのことだった。ワークライフバランスへの配慮を強く感じた。



ZF社訪問

同社は26か国に122か所の製造工場を持つ、ドライブライン及びシャシ・テクノロジー分野におけるグローバルカンパニーである。2013年、同グループは168億ユーロの売上高を達成した。約72,600人の従業員が仕事に従事している。主要製品群はトランスミッションとステアリング・システム、シャシ・コンポーネントとアクスル・システム及びモジュールであり、世界の自動車部品サプライヤー・ランキングにおいて上位10社に含まれる。



同社は1915年に飛行船及び車両用のトランスミッションの開発と製造のために設立された。

会社説明の後、安全眼鏡、安全靴(カバー式)、蛍光色のベストを身につけ、トランスミッションやシャフトの工場見学をした。日本と違って決まったユニフォームはなく(エバスペヒャー社でも同様)、自由な服装作業を行っている点がユニークであった。また製造ラインには男性が多いが、少ないながら女性も作業に従事している。

■当会の視察団メンバー(計19名)

		(敬称略)
ゴールドキング(株)	代表取締役社長	小澤 賢記(団長)
ジェイ・バス(株)	代表取締役社長	前田 啓二(バス部会長)
ジェイ・バス(株)	執行役員	秋保 年広
ジェイ・バス(株)	調達副部長	横川 徹
天龍工業(株)	代表取締役社長	吉川 徳雄(資材部会長)
エバスペヒャー社	営業部長	草野 喜行
(株)オージ	経営企画室室長	榎本 正悟
(株)小田原機器	代表取締役会長	津川 善夫
クラリオン(株)	常務取締役	大町 秀雄
(株)五光製作所	営業課長	田中 誠
(株)昭和	代表取締役社長	久保 航一
住江織物(株)	執行役員	渡辺 糾
スリーエム ジャパン(株)	CMG技術部	加藤 三省
泰平電機(株)	取締役・営業本部長	磯部 久美雄
(株)榎屋 宇都宮営業所	所長	中曽根 忍
(株)テンソー	代表取締役社長	福西 彰
天龍工業(株)	製造部	川崎 孝志
ロンシール工業(株)	開発営業部産業資材営業G	河岸 一也
日本自動車車体工業会	総務部次長	信澤 幸男

2014年度会員企業の売上高/従業員調査まとめ

NEWS
特集

例年正会員に実施している売上高等の調査結果について本年度の結果がまとまったので概要を報告する。(2015年7月に調査、売上高は2015年3月にもっとも近い決算期、従業員数は3月末現在)

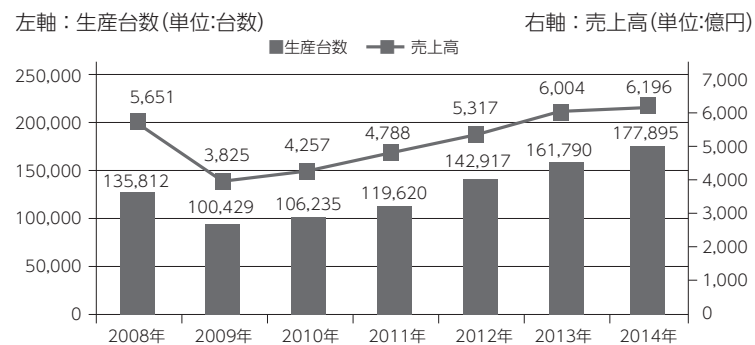
1. 売上高

- ・会員会社全体の車体製造に係る総売上高は5兆446億円となり前年度比97%。
- ・一方、委託量産会社を除く非量産会社の総売上高は6,196億円で同103%、生産台数は177,895台で同110%。総売上高及び生産台数とも、リーマンショック前の2007年度並みに回復。
- 東日本大震災に伴う復興需要の継続や2003年の排ガス規制から10年が経過することに伴う代替需要がプラス要因と考えられる。

■会員会社年度別売上高

	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年
調査員数(社)	163	163	167	170	183	184	184
車体部門売上高合計(億円)	45,168	41,413	40,291	43,228	51,684	52,124	50,446
非量産車製造会社売上高(億円)	5,651	3,825	4,257	4,788	5,317	6,004	6,196

■非量産車会社売上高・生産台数年度別推移



2. 従業員数

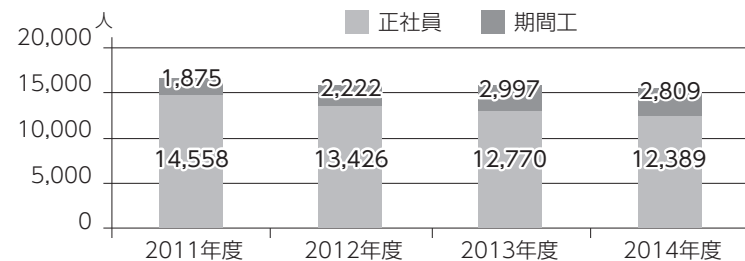
- ・会員会社全体の車体製造に係る従業員数は51,596人で前年度比96%。内訳は、正社員同94%、期間工同105%。
- ・非量産車製造会社の車体製造に係る従業員数は15,198人で同96%、内訳は、正社員同97%、期間工同94%。
- ・正社員は引き続き減少、期間工も減少。

■従業員数

従業員数	2013年度				2014年度				前年度比		
	正社員	期間工	比率	計	正社員	期間工	比率	計	正社員	期間工	計
車体部門従業員数	44,806	8,951	17%	53,757	42,156	9,440	18%	51,596	94%	105%	96%
うち非量産車製造会社	12,770	2,997	19%	15,767	12,389	2,809	18%	15,198	97%	94%	96%

期間工：期間従業員、嘱託、派遣社員等

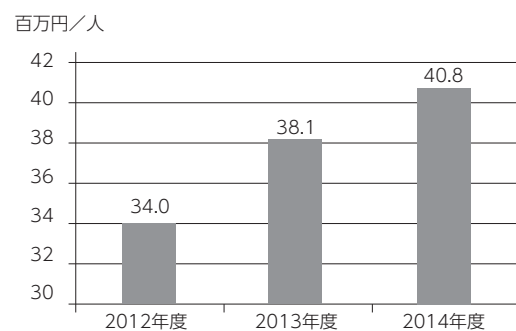
■従業員数推移(非量産車製造会社)



3. 従業員1人当たりの売上高、生産台数(非量産車製造会社)

この2年間、1人当たりの売上高は約1.2倍、生産台数も約1.2倍となっている。

■従業員1人当たり売上高(単位：百万円/人)



■従業員1人当たり台数(単位：台数/人)



本部だより

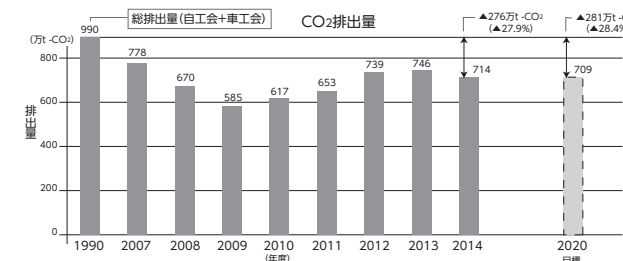
NEWS+FLASH

■環境自主取組みのフォローアップ結果

1. CO2排出量削減

地球温暖化対策のCO2削減活動は、2008年度から日本自動車工業会と一体となった活動を実施しており、2015年度調査結果(2014年度実績)は以下の通り。

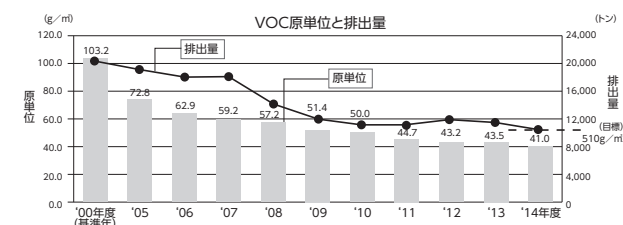
- ・2014年度の両工業会合算排出量は、2020年度目標値709万t-CO2(1990年度比▲28.4%)に対して、714万t-CO2(1990年度比▲27.9%)で目標比98.2%の達成率
- ・2020年度に向けて、今後もさらなる削減努力を継続



2. VOC排出量削減

塗装工程でのVOC削減について2015年度調査結果(2014年度実績)は以下の通り。

- ・2014年度排出原単位は41.0g/m²と目標(51.0g/m²)を達成
- ・サブ目標である排出量低減率(基準2000年度比▲30%削減)についても▲49.5%減で目標達成
- ・各社の地道な工法改善(適正な吹付け)、材料見直し(低VOCシンナー化)等により低減が図れた



■日本ELVリサイクル機構/日本トラックリファインパーツ協会による工場見学会を実施

環境委員会架装物リサイクル分科会(分科会長・新免俊彦・極東開発工業(株)品質保証部長)では、日本自動車工業会と協業で、11月20日に解体・3Rの団体である日本ELVリサイクル機構と日本トラックリファインパーツ協会の23社36名が参加し、新明和工業(株)佐野工場とジェイ・バス(株)宇都宮工場を見学した。

新明和工業(株)では製品概要や環境取組み説明と66年

の歴史を持つ大型特装車(ダンプ、タンクローリ、ミキサ、脱着ボデー車)を見学。

また、ジェイ・バス(株)では路線バスのプレス・板金・塗装・組立工程を順次見学した。日頃見ることができない大きいバスの製造工程を目の当たりにし、大変有意義であったと好評であった。



新明和工業



ジェイ・バス

■工場見学会を実施

環境委員会(委員長・網岡卓二・トヨタ車体(株)会長)では、11月27日、10社11名が参加し、日産車体九州(株)(福岡県京都郡)の見学会を実施した。

同工場は、2010年1月に稼働開始した日産グループの国内最新の工場であり、エルブランド、キャラバンと北米向け大型SUVのインフィニティQX60等5車種を生産している。また、「人と環境に優しい工場」も目標としており、環境面では、中塗り・上塗り工程を統合した3WET(スリー・ウェット)塗装を採用しVOC排出量、CO2排出量とも大幅に削減しているほか、組立のトリムラインの難作業や車体ラインの重筋作業も大幅に向上させている。

このような環境面、労働条件面での取組みに高い関心が寄せられ、有意義な見学となったとの声が多かった。



■2015年度第2回中央業務委員会を実施

中央業務委員会(委員長・古庄忠信・(株)イズミ車体製作所(株)会長)では、10月2日、山田車体工業(株)(静岡県沼津市)で第2回委員会を実施した。

通常は当会会議室で実施しているが、今回は同委員会の目的である中小企業支援の参考とすべく山田車体工業(株)で実施。委員会に先立ち、同社の工場見学を行った。

工場見学では、トラックの平ボデーを中心に様々なユーザーニーズに対応するため、きめ細かい作業による品質の高さに参加委員の関心が集まった。

また、委員会では、税制改正要望、コンプライ



アンス経営調査、消費税転嫁拒否事例、マイナンバー制度に伴う企業での対応等、中小企業経営支援に関する事項が積極的に論議された。

■2016年度税制改正に関する要望を提出

当会では、以下の通り、自動車関連税制並びに中小企業税制について、税制改正に関する要望をまとめ、政府・自民党に対して要望した。

【要望理由】

- ・昨年度の大中型貨物車の販売台数は88千台と5年連続で前年超えになり、リーマンショック前の2007年度と同等レベルとなった。
- ・経済対策による公共投資の下支えは徐々に減衰するものと予測され、中長期的には社会環境変化により国内物流の減少が懸念され、車体メーカーの経営状況の厳しさは続くと考えられる。
- ・このような中で、特に地場産業として地域に密着したトラック製造などの中小車体メーカーへの経営支援策の継続、充実が必要と考えられる。

【要望事項】

I. 自動車関連税制

1. 複雑で過重な自動車関係諸税の簡素化／軽減を要望
 - ・消費税10%時、自動車取得税の確実なる廃止
 - ・自動車重量税の廃止
2. 自動車取得税廃止に伴う財源確保のための自動車関係諸税の増税に反対
 - ・自動車保有税の初年度上乗せ等による負担増／更なる複雑化に反対
 - ・新自動車税(環境性能課税)は自動車取得税の付け替えであり、反対

II. 中小企業税制

1. 中小企業法人税 軽減税率の拡大
 - 未だに企業経営が厳しい状況であるため、中小企業を対象とした軽減税率の更なる低減等を要望する。
2. 税法上の中小企業定義の見直し
 - 中小企業関連税制の活用拡大を図るために、法人税制上の資本金基準を「3億円以下」に引き上げることを要望する。

■自動車関係諸税の簡素化・負担軽減に関する活動

当会も構成会員である自動車税制改革フォーラムでは、JAF(日本自動車連盟)をはじめとした自動車関係20団体と共に「クルマは生活必需品！過重で不公平・不合理な税金は納得できません！」チラシを作成し、当会会員に配布した。

【要望】

- ・国際的にも重すぎる車体課税の軽減をすべきです。(欧米諸国と比べて約2～34倍の税負担)
- ・軽自動車税(二輪車を含む)は、これ以上の負担にならないようにすべきです。
- ・ガソリン税に消費税がかけられている「Tax on Tax」は極めて不合理な仕組みであり、解消すべきです。
- ・ガソリン税、軽油引取税に上乗せされた「当分の間税率」は廃止すべきです。



■「チャレンジ5推進委員会」で異業種訪問を実施

チャレンジ5推進委員会(委員長:矢野彰一・㈱矢野特殊自動車社長)では、10～11月に今年度の活動の大きなテーマである「経営品質向上のための事例研究」のため、異業種訪問を実施した。

これは、国内で高いシェアを獲得し、かつ高い技術力を有する「ものづくりに根ざして成功している」ニッチトップ企業、スモールエクセレント企業と言われる中小企業を対象に、各社のトップから経営、事業に関する考え方や今後の展望等について伺うことで、当工業会の中小企業会員の今後の参考としていくことを目的に行った。

10月28日にガソリン用地下タンクでトップシェアの玉田工業(株)(石川県金沢市)、11月12日にトンネル工事用集塵装置でトップシェアの(株)流機エンジニアリング、16日には免震・防音装置等で高い技術を持つ(株)イーエス(東京都墨田区)を、各委員が訪問、各社の会長、社長に話を伺うとともに、意見を交換した。

この訪問活動の内容は、来年3月に発行予定の「チャレンジ5推進活動 2015年度報告書」に盛り込み、会員に展開予定である。



■2015年度車体工業会PL保険加入状況と2014年度PL事故事例について

毎年10月が保険年度の更新時となり、2014年度損害率と2015年度の加入結果は下記のとおりとなった。

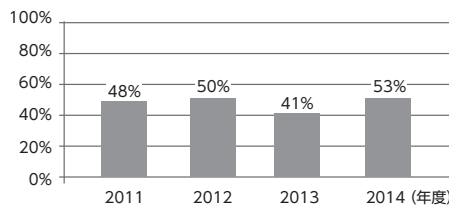
1. 2015年度車体工業会PL保険の加入状況(10月1日現在)

(1)加入者数と単年度損害率(過去4年間)

年度	保険料(万円)A	支払保険金(万円)B	損害率(%)C	支払対象件数	加入会員数
2012年度(12.10～13.09)	1,345	592	43	3	89
2013年度(13.10～14.09)	1,369	161	12	3	93
2014年度(14.10～15.09)	1,306	1,374	106	8	94
2015年度(15.10～16.09)	1,306	—	—	—	95

※2014年度損害率は前年比大幅に増加し106%(損害率C=支払保険金B/保険料A×100%)
2015年度PL加入会員数は前年比1社増加の95社

(2)3年間移動平均の損害率変化(過去4年間)



※3年間移動平均の損害率は前年より大幅に減少し41%と低い値となり、その結果2014年度保険料は前年比約8%低減

2. 2014年度PL事故事例

2014年度に発生した事故は下記のとおり

(1)トラック平ボデー車

荷台前壁の倒れによりキャビン破損

原因： 前壁とサブフレームの溶接不良

(2)クレーン車

ラジエータ漏水によりオーバーヒートしエンジン損傷

原因： ラジエータアッパーホースを交換する際に取付不良によりホースバンドがずれホース変形し水漏れ

(3)移動タイヤサービスカー

過電流によりエアークラッチ破損

原因： 架装時100Vコンセントに200Vの電源配線を誤着

■第23回自動車産業労政合同勉強会を開催

人事労務研究会では、9月18日、日本自動車工業会、日本自動車部品工業会と合同で、トヨタ自動車東日本(株)(宮城県黒川郡)で、31社42名が参加し、第23回労政合同勉強会を開催した。

まず最初に同社の概要について、2012年に関東自動車工業(株)、セントラル自動車(株)、トヨタ自動車東北(株)の3社が合併して設立され、東日本大震災の復興支援を継続しており、従業員7,600名中、90%が東北出身者であるとの説明があった。

続いて、トヨタグループの最新工場である大衡工場で、シェンタ、カローラアクシオの生産ラインを見学した。ここでは500台/日を生産するためロボットや自動搬送機等最新鋭の生産設備が導入されるとともに、人に優しい効率的な生産ラインとなっていることを見学することができた。

また、同社内にある企業内訓練校であるトヨタ東日本学園も視察した。

同学園は、「モノづくりは人づくり」という考えに基づき2013年4月に設立され、モノづくり現場の中核人材を育成するため、生産技術や機械設備についての専門教育を行っている。今回はロボット整備、電気・電子、手作業実習、伝統工芸研修、海外研修等について説明を受けた。

見学後、同社の会議室で「技能系社員の人材育成について」をテーマとして、労政合同勉強会を実施した。席上、参加者から「人材確保」「若年層の向けの教育・研修制度」、「モチベーション向上の取組み」等について活発な論議が交わされ、情報交換が行われた。

参加者からは大変充実した見学会並びに勉強会であった旨の声が多数出ていた。



■支部連絡会を開催

支部連絡会(議長・須河進一・須河車体(株)社長)は、9月9日、中国支部長会社である(株)河野ボデー製作所において2015年度第1回支部連絡会を開催した。また連絡会に先立ち同社の工場見学を行った。

1. 工場見学

(株)河野ボデー製作所は、本社工場、東部工場及び関東工場の3つの工場をもち、今回は本社工場を見学した。当日はマツダボンゴや日産キャラバンを冷蔵車に架装する作業を見学、パネルと骨格材を組み付け後、断熱材料を注入し断熱効果と剛性を確保していた。板金～塗装～組立だけでなく、木製製品を搭載する架装車では木工作業から自社にて行っており、架装車のモノづくり集団への取り組みを確認でき有意義な見学となった。

2. 支部連絡会

今年度の事業計画である「支部活動の活性化を目的とした良いとこ取り活動」について報告・質疑・共有を図り、自支部活動の活性化につなげていく参考となった。また今後も支部ならではの地域特有の情報を交換することを確認した。



特装部会

■メンテナンスニュースNo.39 (飼料運搬車保守編)を発行

サービス委員会(委員長・佐藤孝雄・極東開発工業(株)サービス本部副本部長)では、メンテナンスニュースNo.39(飼料運搬車保守編)を作成し、9月より全国のサービス工場、当会ホームページ等で架装物の点検整備についての啓発活動を実施している。



■工場見学会を実施

サービス委員会(委員長・佐藤孝雄・極東開発工業(株)サービス本部副本部長)では、11月6日に新潟トランス(株)新潟事業所(新潟県北蒲原郡)の工場見学会を同委員会メンバー7社8名参加により実施した。

同事業所は、新潟市の東に隣接する聖籠町(せいろうち)に所在し、新交通システム用車両、低床式路面電車(LRV)、鉄道車両、レール・架線・トンネル保守用車両などのほか、ロータリ式除雪車も生産している。

今回の見学会では、これら車両の生産ラインの最終段階で施される溶接歪の質の高い除去作業を見学することができた。また、製作者としての苦労話や工夫している点等について、意見交換することができ、大変参考となる見学会であった。



■工場見学会を実施

清掃車小委員会(座長・栗本英二・新明和工業(株)広島工場設計課長)では、11月27日に(株)スギノマシン早月事業所(富山県滑川市)の工場見学会を4社5名の参加により実施した。

同社では、洗浄機器、切断装置、水ポンプシステム等、主に水を利用した超高圧、超精密な製品を製造している。同社の製品は、車工会会員の製品はもとより、航空機業界、自動車業界等の様々な製品に利用されている。

今回の見学会では、超高圧水切断装置により、厚さ20mmほどのスポンジを複雑な形状に一瞬で切取る水ならではの技術を実演していただいた。また、開発の秘話、苦労話も紹介していただき、大変参考となる見学会であった。



特種部会

■工場見学会を実施

特種部会(部会長・古庄忠信・(株)イズミ車体製作所会長)では、10月9日～10日、部会員19社34名が参加し、(株)イズミ車体製作所(熊本県大津町)と富士フィルム九州(株)(同県菊陽町)、サントリー九州熊本工場(同県嘉島町)の工場見学会を実施した。

(株)イズミ車体製作所では、2007年に熊本市内から大津町に工場を移転した経緯や新工場の狙いについて説明があった。その中で、従来から取り組んでいる高齢者の雇用や優れたモノづくり技能と人格を兼ね備えたマイスターの認定による技術の伝承、そして事務所、工場全体でのバリアフリー化といった取組みについては、参加者が大きな関心を示していた。

工場内の各職場で「整理」「整頓」「清掃」が徹底されていることや環境に配慮した塗装ブースの導入等が多くの参加者の関心を集めていた。

また、富士フィルム九州(株)では、液晶画面用偏光板の生産工程を、サントリー九州熊本工場では、ビールと清涼飲料水の混合生産工程を、それぞれ見学した。

2社とも、阿蘇の水資源を活用しており、10年ほど前に新設された最新鋭の装置産業であることから、普段は見ることがない異業種の工場見学となった。参加者からも架装工場とは全く異なるが、最新設備を用いた工場を見ることができ、見分が深まったとの声が多かった。

このように、部会会員の架装工場に加えて、最先端の異業種の工場を2か所合わせて見学できたことで、大変有意義なものとなった。



イズミ車体製作所 検診車架装工程

トラック部会

■工場見学会を実施

トラック部会(部会長・田村元・(株)浜名ワークス社長)では、11月13日に13社21名が参加し、(株)井関松山製造所(愛媛県松山市)の工場見学を実施した。

(株)井関松山製造所は、井関農機(株)本社に隣接した創業当初からの主力工場であり、大型から小型の農業用トラクタを中心に生産している。トラクタ用のエンジンやトランスミッションの鋳造、機械加工、それらの組み立てに加えて、外装用プレス部品の製作や塗装、トラクタの最終組み立てに至る一貫生産を直接見ることができ、有意義な見学会となった。

更に、早くからISO規格を取得されるなど、品質確保や環境面での地域貢献などに熱心に取り組まれている様子がよく分かり、深い感銘を受けた。

また、工場見学やギャラリーの紹介を通じて「もの育」、「食育」の推進や、製造現場における人づくりとして現場第一線の熟練工を中心とした技能伝承、指導者、監督者、グローバルに活躍する技術者の育成に積極的に取り組む姿勢は、会員にとって大変刺激となった。



バン部会

■工場見学会を実施

バン部会(部会長・上野晃嗣・日本フルハーフ(株)社長)では、10月9日に10社31名が参加し、UDトラックス(株)UDエクスペリエンスセンター及び上尾工場の見学会を実施した。はじめに、村上社長から社歴並びに会社概要、製品につ

いて説明を受けた後、創立80周年を記念して今年5月に建てられた、真新しいUDエクスペリエンスセンターを見学した。館内は明るく開放感のある空間が広がり、歴代トラックをパネルで紹介した歴史エリア、ラインナップを展示したエリア、車両のデザインコンセプト紹介エリア、アフターマーケットエリアで構成され、各エリアに詰められたUDブランドの思いを体感できた。

一方、リニューアルされた工場では、車両組み立てライン、エンジン加工ライン及び組立ラインとも、厳重な品質管理がなされ自動化率も高く目を見張るものがあった。また、大型トラックの試乗会はテストコースで行われ、バンク走行など会員にとって普段経験することのできない貴重な体験となった。

今回はシャシメーカーということもあり会員の関心が高く、5月の見学会と同様に多数の会員が参加し、大変有意義な見学会となった。



トレーラ部会

■工場見学会を実施

トレーラ部会(部会長・西川柳一郎・日本トレクス(株)社長)では、11月13日に部会員11社20名が参加し、(株)イズミ車体製作所(熊本県大津町)と(株)井関熊本製造所(熊本県上益城郡)の工場見学を実施した。

(株)イズミ車体製作所では、主力製品である各種検診車の製造工程に加えて、事務所、工場全体でのバリアフリー化といった取組みを見学、初めて見る検診車の製造過程に関心が集まった。更に、高齢者の雇用や優れたモノづくり技能と人格を兼ね備えたマイスターの認定による技術の伝承も興味深かった。

また、(株)井関熊本製造所では、井関グループの中でコンバインの専門工場としてプレスから機械加工、塗装、組み立てと一貫生産体制を取っており、小型の2条刈から大型の6、7条刈までの幅広いラインナップのコンバインを生産している。その中で、省エネは勿論のこと、「環境に優しい備品・設備の導入(グリーン購入)」や「地域グリーン行動」により、地元熊本県の豊かな自然環境を保全するための活動に参加者が一同感心していた。



バス部会

■塗装技術者向け勉強会を開催

塗装デザイン研究会(委員長・本庄慶一・ジェイ・バス(株)受注設計部小松仕様グループ主任)では、11月24日に関西ペイント(株)ARC西日本において「塗装技術者向け勉強会」を開催した。

本勉強会は少量多品種の塗装をしている会員に役立つ情報を提供する場として、2009年から実施しており、バス部会以外からの会員も含め、16社24名が参加した。

関西ペイント(株)の方が講師になり、座学では、自動車補修塗装の概論として、大きな面積の馴染みへの対応・小キズのボカシ補修の対処・メタリック塗装のポイントなどの基礎について説明、続

いて概論で学んだ内容の実演を見学した。参加者の多くが実際に塗装に携わっている担当者であり、更に過去のアンケート結果で要望の多かった会員製品特有のテーマとしたことで、非常に充実した技術情報を得ることができ、大変有意義な勉強会であった。



実演見学



講義

小型部会

■全日本学生フォーミュラ大会視察

技術委員会(委員長・大竹克幸・トヨタ自動車東日本(株)第2ボデー設計部主査)は、9月4日、静岡県小笠山総合運動公園(エコパ)で行われた自動車技術会主催の全日本学生フォーミュラ大会を視察した。



フォーミュラカー走行風景

当日はフォーミュラOBにガイドをお願いし、エンデュランス(約20kmを走行し、走行性能、耐久性、燃費を競う)やプラクティス走行(走行練習)を視察した。昨年の振り返り、車両規則を守りながら最大限のパフォーマンスを発揮するための企画、そして設計・製作と一連の“ものづくり”の活

動は、まさに自動車の車両開発のミニチュア版を実行しており感心させられた。また完成したフォーミュラカーでの走行からは、学生たちの熱い想いが伝わり、まさに野球の甲子園を感じさせるものがあった。



走行を視察する委員たち

■工場見学会を実施

小型部会(部会長・石井善章・トヨタ自動車東日本(株)副社長)は、9月25日に6社19名が参加し、八千代工業(株)四日市製作所(三重県四日市市)とトヨタ車体(株)いなべ工場(三重県いなべ市)の工場見学会を実施した。

八千代工業(株)四日市製作所では、S660、アクティトラック・バンなどを生産している。当日はS660の溶接、組立及び完成検査工程を見学した。「インナー治具工法」でのパネル溶接など少量生産を活かした高精度・高効率のモノづくりに取り組んでいた。また生産現場は、魅力あるオープンスポータカーと同じように人の動きが生き生きしていた。

トヨタ車体(株)いなべ工場では、アルファード、ハイエースなどを生産している。当日はプレス及び組立工程を見学しながら、開発・生技・生産・調達(仕入れ先)の四部門が一体となった四位一体活動での「気遣い作業廃止」や「現場改善力向上」などから生まれた台車、治具の説明を受けた。課題を捉える力とデータに裏付けされた対応能力の高さに驚くばかりであった。



八千代工業



トヨタ車体

支部だより

NEWS+FLASH

北海道支部

■第22回・合同部会を開催

北海道支部(支部長・坪川弘幸・北海道車体(株)副社長)では、10月6日、16社19名が参加し、札幌第一ホテルにて、合同部会を開催した。

部会前に、千歳市にある農機具メーカー(株)IHIスター(北海道千歳市)を見学した。

同社は創業以来90年の歴史ある企業で、全国に10か所の営業所を有し「人と農業と自然とのバランスのとれた環境づくり」をテーマに、各地のニーズに応じた農業機械による省力化、生産性の向上に取り組んでいる、また、知的財産にも積極的に取り組み新製品開発に力を入れ多品種生産にもかかわらず工場のレイアウトもうまく工夫しているところなど、大変勉強になった。



IHIスター工場前にて

東北支部

■工場見学会及び情報交換会を開催

東北支部(支部長・鈴木勇人・仙台鈴木自動車工業(株)社長)では、11月20日、21社32名が参加し、(株)いそのボデー(山形県山形市)の工場見学会及び情報交換会を開催した。

(株)いそのボデーは、今年初めに「日本掃除大賞2015」の「経済産業大臣賞」を車体工業会会員では初めて受賞しており、工場見学では、整理・整頓・清掃の3Sの徹底の様子や現場で気づいた“ちょっとした”提案活動である「チョコ案」の推進の実例など、掃除大賞にふさわしい活動を見学した。今回は支部会員の実務者も多かったため、「自社でも活用したい」「非常に参考になった」などの声が多く聞かれた。

続いて行われた情報交歓会では会員間の親睦を深めることができた。



中部支部

■秋季研修会を開催

中部支部(支部長・尾崎二三男・(株)東海特装車取締役)では、10月22日～24日の3日間、16社16名が参加し、秋季研修会を行った。

今年度は(株)矢野特殊自動車の見学に続いて、佐賀の陶芸関連施設見学、長崎市内視察を実施した。

(株)矢野特殊自動車では、冷蔵・冷凍車やタンクローリーの製造現場を見学。見学後には現地現物にて改善事例の説明があり、参加会員の今後の事業活動に活かしていくうえで、大いに参考になった。

また、(株)矢野特殊自動車との親睦を深めるとともに、会員間のコミュニケーション強化のためにも有意義な研修会であった。



近畿支部

■秋季研修会を開催

近畿支部(支部長・須河進一・須河車体(株)社長)では、11月13日～14日に、18社23名が参加し、秋季研修会を開催、コマツ(株)金沢工場(石川県金沢市)を見学した。

同工場では、品質・安全の向上に最優先に取り組んでおり、工場内の生産ラインだけでなく敷地内の通路もゴミ一つ落ちていないほど整理整頓が行き届いた作業環境であった。

また高所作業時においても周りの作業者にも注意喚起を促すような安全対策がなされていた。

このように、環境対策、安全対策の強化が図られており、参加会員にとっても大いに参考になった。また同社で掲げている「The KOMATSU Way」の中のモノ作り競争力強化に結びついていること、そして人づくりにも繋がっていることなどが理解できた。

参加会員には支部の団結・親睦を深める有意義な研修会となった。



九州支部

■秋季研修会を開催

九州支部(支部長・矢野彰一・(株)矢野特殊自動車社長)では、10月29日～30日に、11社14名が参加し、秋季研修会を実施した。

研修会では、1日目に特装車・特殊車・キャンピングカー等の生産、輸出車両の改造を行っている(株)東海特装車本社工場(愛知県安城市)を見学した。同工場では、蓄積されたノウハウを基に、質の高い技術と製品開発で付加価値化に積極的に取り組んでいる姿勢に参加者全員が感心した。更に現場参加型の改善報告会については、今後の九州支部の活動に取り入れることでレベル向上の糧としたいと感じた。

また、2日目には東京ビッグサイトで開催されていた“東京モーターショー2015”を見学し、参加者一同有意義な研修会となった。



官公庁だより NEWS FLASH

冬季の省エネルギー対策を決定 ～11月から3月は冬季の省エネキャンペーン～

経済産業省

11月から3月まで、冬季の省エネルギー対策を促進するため省エネルギー・省資源対策推進会議省庁連絡会議を開催し、「冬季の省エネルギー対策について」を決定した。

省エネルギー・省資源対策推進会議省庁連絡会議は、関係府機関で構成され、毎年、エネルギー消費が増加する夏と冬が始まる前に開催されている。

なお、当該冬季の省エネルギー対策については、決定された「2015年度冬季の電力需給対策について」と一体となる形で、省エネルギーに関する取組みを推進する内容になっている。

【公表日】 2015年10月30日

<詳細は下記を参照>

<http://www.meti.go.jp/press/2015/10/20151030005/20151030005.html>

経営革新等支援機関として 新たに128機関を認定

経済産業省・中小企業庁

中小企業の新たな事業活動の促進に関する法律第17条第1項に基づき、新たに128の機関を経営革新等支援機関として認定した。

これにより、経営革新等支援機関数は24,444機関となった。

近年、中小企業を巡る経営課題が多様化・複雑化する中、中小企業支援の担い手の多様化・活性化を図るため、中小企業に対して専門性の高い支援事業を行う「経営革新等支援機関」を認定する制度が2012年8月に創設された。

本制度は、税務、金融及び企業財務に関する専門的知識や中小企業支援に係る実務経験が一定レベル以上の個人、法人、中小企業支援機関等を「経営革新等支援機関」として認定することにより、中小企業に対して専門性の高い支援を行うための体制を整備するものである。

【公表日】 2015年10月23日

<詳細は下記を参照>

<http://www.meti.go.jp/press/2015/10/20151023004/20151023004.html>

「TPP相談窓口」を設置

経済産業省

環太平洋パートナーシップ協定(TPP協定)に関する相談窓口を設置する。

中堅・中小企業を始めとする我が国企業にTPPを十分に活用いただけるよう、TPPを活用した市場開拓や海外展開をめざす企業等の皆様からの相談に対応するためのTPP相談窓口を設置する。

全国の経済産業局、日本貿易振興機構(JETRO)、中小企業基盤整備機構、合わせて65か所に窓口を設置し、企業等の皆様からの相談を受けるとともに、適切な情報提供を行っていく。

相談窓口の設置により、TPPがもたらす多様なメリットへの理解を促進し、中堅・中小企業を含む我が国企業のTPPを活用した市場開拓や海外展開に向けた取組みが加速するよう、きめ細かな対応を行っていく。

【公表日】 2015年11月6日

<詳細は下記を参照>

<http://www.meti.go.jp/press/2015/11/20151106003/20151106003.html>

中小企業の人材確保のための 合同企業説明会等を開催

経済産業省・中小企業庁

中小企業・小規模事業者の人材確保を応援するための合同企業説明会、新人向けセミナー等を各地で行っている。既に公表した434回に加え、新たに310回のイベント開催が決定した。

- 2014年度補正予算・2015年度予算により行う地域中小企業人材バンク事業は、地域の中小企業・小規模事業者のニーズに応じ、地域内外の若者・女性・シニア等の多様な人材から地域事業者が必要とする人材を発掘し、紹介・定着まで一貫して支援を行っている。
- 全国47都道府県で公募により実施事業者が選定され、各地で合同企業説明会等を開催している。また、都市部の若手人材等を発掘し、地域事業者とのマッチングを行うUIターン人材確保イベントも行っている。前回(8/26)の発表から、新たに310回のイベントが追加された。本事業では年間1,000回以上のイベントを行う予定。

【公表日】 2015年10月1日

<詳細は下記を参照>

<http://www.meti.go.jp/press/2015/10/20151001006/20151001006.html>

中堅・中小企業のイノベーション(研究開発)と 標準化を一体的に支援

経済産業省・中小企業庁

日本再興戦略(改訂2014及び2015)を踏まえ、我が国の産業競争力と地域の稼ぐ力の強化を目指し、中堅・中小企業のイノベーション(研究開発)と標準化を支援する以下の取組みを一体的に行う。

- ① 橋渡し研究機関との共同研究を通じて、地域の中堅・中小企業等の技術力向上や生産方法の革新等の実現を支援する。
- ② 自治体・産業振興機関、地域金融機関、大学・公的研究機関等と連携して、「標準化活用支援パートナーシップ制度」を11月4日に創設する。これにより、地域の中堅・中小企業等の有する優れた技術・製品を発掘し、標準化を通して当該技術・製品の国内外におけるマーケティングを支援する。

本制度は、11月4日(水)に運用を開始

【公表日】 2015年9月30日

<詳細は下記を参照>

<http://www.meti.go.jp/press/2015/09/20150930007/20150930007.html>

「2014年工業統計調査」の速報結果を公表

経済産業省

2014年12月31日現在で「工業統計調査」を実施した。製造品出荷額等は3年連続増加、付加価値額は2年連続の増加となった。

東日本大震災による被災地域の製造品出荷額等を見ると、岩手は震災前の2010年を3年連続上回り、宮城は2年連続上回っている。福島は2010年に届いていないものの3年連続増加している。

【公表日】 2015年9月29日

<詳細は下記を参照>

<http://www.meti.go.jp/press/2015/09/20150929004/20150929004.html>

最大積載量等の変更を行う場合の 自動車製作者の証明について(9月4日)

国土交通省

【概要】 「牽引自動車の軸重に関する技術基準」に適合したトラクタについて、スカニア社の証明様式について通知があったもの。

【施行日】 2015年9月4日

道路運送車両の保安基準等の一部改正について(10月8日)

国土交通省

【概要】 UN-R117(タイヤの車外騒音・ウェット路面上の摩擦力・転がり抵抗に係る協定規則)を採用するため、保安基準等について所要の改正を行ったもの。

【適用範囲】 空気入りゴムタイヤを備える自動車

【適用時期】

		適用時期	
		新型車	継続生産車
乗用	乗車定員9人以下	2018年4月1日	2022年4月1日
	乗車定員9人超でGVW5t以下	2019年4月1日	2024年4月1日
	乗車定員9人超でGVW5t以下	2023年4月1日	2026年4月1日
貨物	GVW3.5t以下	2019年4月1日	2024年4月1日
	GVW3.5t超	2023年4月1日	2026年4月1日
トレーラ	GVW3.5t以下	2019年4月1日	2024年4月1日
	GVW3.5t超	2023年4月1日	2026年4月1日

装置型式指定実施要領の一部改正について(10月8日)

国土交通省

【概要】 道路運送車両の保安基準の細目を定める告示の改正に伴い、装置型式指定実施要領について、以下の改正を行ったもの。

- ①「二輪自動車用空気入りゴムタイヤ」、「乗用車用空気入りゴムタイヤ」及び「トラック、バス及びトレーラ用空気入りゴムタイヤ」に係る装置型式指定基準について、協定規則を直接引用した。
- ②「タイヤの車外騒音・ウェット路面上の摩擦力・転がり抵抗に係る協定規則」の採用に伴い、「乗用車用空気入りゴムタイヤ」及び「トラック、バス及びトレーラ用空気入りゴムタイヤ」に係る装置型式指定基準に当該協定規則を追加した。

③ その他、誤記訂正等

【施行日】 2015年10月8日

「道路運送車両の保安基準等の一部改正に伴い最大積載量等の変更を行う場合の取扱いについて」に基づく自動車製作者の証明について(10月5日)

国土交通省

【概要】 「牽引自動車の軸重に関する技術基準」に適合したトラクタに関する8月31日末現在の追加情報について通知があったもの。

【施行日】 2015年10月5日

「自動車型式認証実施要領」、「輸入自動車特別取扱制度」及び「装置型式指定実施要領」の一部改正について(10月19日)

国土交通省

【概要】 道路運送車両の保安基準の細目を定める告示の改正等に伴い、自動車型式認証実施要領等について、以下の改正を行ったもの。

- ① タクシーについて、通路等の基準廃止に伴う改正
- ② ディーゼル重量車の試験サイクルの変更
- ③ その他

【施行日】 2015年10月19日

新型自動車の審査基準の一部改正(10月19日)

国土交通省

【概要】 道路運送車両の保安基準の細目を定める告示の改正等に伴い、新型自動車の審査基準について、次の内容の改正を行ったもの。

- ① ディーゼル重量車の試験サイクルの変更に伴う改正
- ② その他

【施行日】 2015年10月19日

TRIASの一部改正(11月5日)

交通安全環境研究所

【概要】 道路運送車両の保安基準の改正に合わせTRIASの追加及び改正を行ったもの。

- (1) TRIASの追加
- ① 車載式故障診断装置試験(ディーゼル重量車(J-OBDⅡ))
- ② オフサイクル時のディーゼル重量車排出ガスの制御に関する試験

(2) TRIASの改正

- ① 操作装置及び表示装置試験
- ② 二輪車等の制動装置試験

【施行日】 2015年11月5日

会員情報

代表者変更 準会員 中山工業(株) 代表取締役社長 石川 明宏

訃報

当会理事(ヤナセテック(株)常務取締役)保志隆平氏が11月26日にご逝去されました(享年61歳)。

当会評議員会並びに特種部会事業に大きく貢献され、2015年5月より理事に就任されました。

ご冥福をお祈りいたします。



故 保志 隆平 氏



加藤康治氏(トヨタ車体株)が黄綬褒章を受章

2014年度「卓越した技能者(現代の名工)」を受賞したトヨタ車体(株)の加藤康治氏が2015年度黄綬褒章を受章され、伝達式が11月13日に厚生労働省講堂にて行われた。

加藤氏は、自動車生産設備の保守・保全業務において組立工程における100を超える設備を知り尽くし、設備の不良判定、分析、聴音、触診による機能停止前の設備診断技能に卓越し、工場の安定稼働、製品の品質向上に大きく貢献したことが評価され今回の受章となった。心よりお慶び申し上げます。

お知らせ



TBSラジオで「冬のトレーラ火災事故防止」について放送

冬のトレーラ火災事故を防止するための点検・整備の促進について、当会トレーラ部会の小沢業務副委員長が出演し、次のとおり、放送されます。

◆ 放送日時 2016年1月15日(金)13:42から7分間

◆ 番組名 ドライバーズ・リクエスト(提供:公益社団法人全日本トラック協会)

トレーラのブレーキ・バルブ凍結による車両火災に注意

トレーラのブレーキ・バルブ凍結による車両火災に注意

ブレーキ機器の水分除去のお願い



ブレーキ機器が凍結すると非常に危険な状態になります。凍結を防止するためにエア・タンクの水抜きを励行すると共に、特に冬期に入る前にブレーキ機器の点検整備を行い、ブレーキ用エアに含まれている水分の除去を行ってください。

ブレーキ機器が凍結すると非常に危険な状態になります。凍結を防止するためにエア・タンクの水抜きを励行すると共に、特に冬期に入る前にブレーキ機器の点検整備を行い、ブレーキ用エアに含まれている水分の除去を行ってください。

トラクタとトレーラのエア・タンクからの水抜き

エア・タンクからの水抜きは、道路運送車両法で使用者または運行する人により日常(運行前)点検することが義務付けられており、車両を安全に運行するために非常に重要なことです。エア・ドライヤを装着した車両においても水抜きを励行し、車両の安全な状態を確保してください。

※エア・タンクから多量の水分が排出されるときは、エア・ドライヤの機能が低下している可能性があります。

トラクタのエア・ドライヤの点検整備

ブレーキ用エアに含まれる水分は、ブレーキ機器の潤滑油を洗い流して作動を妨げ、冬期においては凍結して作動不良になる危険性があります。これらの問題を解決するためトラクタにエア・ドライヤが装着されていますが、性能を維持するためには定期的な点検整備が必要です。

乾燥剤やフィルタなどの交換時期等については各トラクターメーカーの取扱説明書やメンテナンス・ノートに従ってください。

ブレーキ機器の点検整備は、専門のサービス工場(認証工場)で受けて下さい。

9月		
2日	商用車ショー企画委員会 兼出展社会議	①展示レイアウトの最終確認 ②ワークショップ等のブース演出の確認 ③個社展示内容のすり合わせ実施
3日	中央技術委員会／経年品質保証WG	①経年品質事例のリスク評価と共有 ②点検整備の必要性確認
4日	トラック部会／技術委員会	①調査研究、標準化、共通化項目の進捗報告と進め方論議 ②中央技術委員会各WGの推進状況を委員間で共有化
	小型部会／技術委員会(静岡)	自動車技術会主催の学生フォーミュラ視察 ▶P.17
8日	特装部会／脱着車技術分科会	①脱着車解説本の見直し検討 ②番号標表示に係る新基準情報の共有
9日	第1回支部連絡会(広島)	①支部事業活動の共有化と良いとこどり活動について論議 ②非会員の共有化と会員化活動について論議 ▶P.14
11日	バン部会／業務委員会	①注文書にお客様確認印押印の実施状況報告と進め方論議 ②安全注記等ラベル類の共用化検討
14日	特装部会／業務委員会	①各分科会の事業進捗状況の共有 ②中央業務委員会の結果報告
15日	特装部会／サービス委員会	①メンテナンスニュース№40検討 ②特装車安全マニュアル改訂版検討
	トレーラ部会／サービス委員会	①国交省指導「車輪脱落事故防止チラシ」20,350部配布決定 ②全ト協依頼「ラジオ放送安全啓発」のテーマ確認
16日	バス部会／技術委員会	①バス車体規格集改訂内容の確認 ②JABIA規格「バス用車いすスロープ」改正内容審議
17日	特装部会／技術委員会	①各分科会の事業推進状況共有 ②番号標表示に係る新基準情報の共有 ③R58第3次改訂情報共有
18日	労政合同勉強会／宮城	①工場見学会の実施(トヨタ自動車東日本㈱大衡工場) ②情報交換の実施「技能系社員の人材育成について」 ▶P.14
24日	中央技術委員会／ 改造自動車等解説本見直しWG	修正内容の確認等
	トレーラ部会／製品安全委員会	①日整連へ協力依頼「メーカー指定点検・整備」を正式受託 ②日整連より協力要請「整備主任者技術研修(毎年4月)への講師派遣」を受諾 することで合意
25日	特種部会／ 業務・技術合同委員会(名古屋)	①次回見学会(1/29～30)をオートワークス京都㈱他に決定 併せて「若手見学会」と「合同研修」の隔年開催を決定 ②経年品質保証等の技術課題のWG委員も交えて共有 ③法規適用に限定して共通部品を設定していくことを決定 ④検査法人との技術検討会の開催時期前倒しを決定 ⑤中京車体工業㈱及びトヨタ産業技術記念館の見学を実施
	小型部会／工場見学会(三重)	八千代工業㈱四日市製作所、 トヨタ車体㈱いなべ工場の工場見学実施 ▶P.17
28日	中央技術委員会／経年品質保証WG	点検整備実施の現状把握
29日	環境委員会／ 架装物リサイクル分科会	①環境・新環境基準適合ラベル取得推進状況確認 ②環境ラベルのプレゼンス向上策提案・審議 ③エコアクション21取得依頼結果報告
30日	第2回中央技術委員会	事業進捗状況の確認
	環境委員会／ 工場環境分科会	①CO ₂ ・VOC排出量2014年度実績集約結果確認 ②節電・省エネ・VOC改善事例共有とHPへの掲載確認

10月		
2日	第2回中央業務委員会(静岡)	①税制改正要望についての状況を共有 ②コンプライアンス調査を12月に実施することを決定 ③非会員リストの共有と正会員化について論議 ④「消費税転嫁拒否事例」、 「マイナンバー制度に伴う企業での対応」について共有 ⑤山田車体工業㈱の工場見学を実施 ▶P.12
	特装部会／クレーン車技術分科会	①技術委員会結果報告 ②作業時安全灯火の各社装着実態検討
5日	バン部会／部会会議	①調査研究、標準化、共通化項目の進捗状況報告 ②中央各委員会の推進状況の部会員間共有化 ③9月以降欠員となっていた副部長を選出
6日	第2回環境委員会	①環境・新環境基準適合ラベル取得推進状況確認 ②環境ラベルのプレゼンス向上策提案・審議・了承 ③エコアクション21取得依頼結果報告 ④CO ₂ ・VOC排出量2014年度実績集約結果確認 ⑤節電・省エネ・VOC改善事例共有とHPへの掲載確認
	バス部会／技術委員会	①JABIA規格「バス用車いすスロープ」改正内容審議 ②JIS「バス用シートの形状及び寸法」の内容確認 ③工場見学会補欠の絞り込み
7日	第3回チャレンジ5推進委員会	①異業種ヒアリング実施について論議、共有 ②経営品質向上に関する文献調査内容について論議 ③車体架装の成長戦略について論議
	トレーラ部会／技術委員会	①R10電磁両立性成績書の各社使用方法について共有 ②R13制動装置適用による「2013年度版点検整備方式」について改定案審議
9日	特装部会／ダンプ車技術分科会(福島)	①技術委員会結果報告 ②定期点検内容の統一化検討
	特種部会／見学会(熊本)	㈱イズミ車体製作所と富士フィルム九州㈱、 サントリー九州熊本工場の工場見学を実施 ▶P.15
13日	バン部会／工場見学会(埼玉)	UDトラックス㈱上尾工場及びエクスペリエンスセンターの 見学会を実施 ▶P.16
	特装部会／清掃車小委員会	①巻込防止装置の構造に関する検査法人への相談結果報告 ②特装技術委員会結果報告
14日	中央技術委員会／ R58第3次改訂対応WG	①国交省及び自工会との調整状況報告 ②自工会への要望事項検討
15日	常任委員会	3Dスキャナー活用の方性について論議
	第233回理事会	報告事項 1) 2015年度 事業計画 本部・部会・支部別2/4期実績まとめ 2) 2015年度 2/4期 収支実績まとめ 3) 2014年度 会員企業の売上高/従業員数まとめ 4) チャレンジ5推進委員会の検討状況と課題 5) 2014年度 PL事故事例と再発対応策 6) 2015年度 基準化/共通化/調査研究テーマ進捗状況 7) 自動車の機能安全規格ISO26262改訂進捗状況 8) ナンバープレート視認性に関する新法規対応状況 9) CO ₂ 及びVOC排出量フォローアップ結果 10) 環境基準適合ラベルの認知度向上の取組み 11) 2016年度税制改正要望案 12) マイナンバー制度導入に伴う企業の対応 13) 東京モーターショー「働くくるま」合同展示概要 他
	講演会 (くるまプラザ会議室)	「国内トラック・バスの需要動向とドライバー不足の現状と今後について」 講師:小鷹好夫氏(日野自動車㈱) ▶P.5
	バン部会／ 技術委員会	①JABIA規格「再帰反射材の取付基準」原案につき論議 ②「バンに関する用語集」素案の全体構成につき討議 ③フェリー火災対策の今後の対応方針につき討議
16日	バス部会／ ワンマン機器委員会	①JIS「方向幕巻取器」の内容確認 ②行先表示器LEDカラー化課題確認 ③JABIA規格「バス用乗降中表示灯」改正案作成

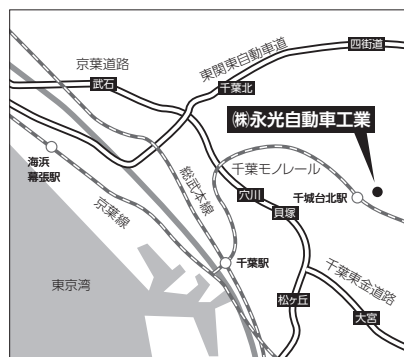
16日 ～23日	資材部会／欧州視察	① BUS WORLDの視察／ドイツ、コルトレイク ② 工場見学の実施(エバスペヒャー社、ZF社／ドイツ) ▶P.9
20日	トレーラ部会／製品安全委員会	① リレー・エマー・ジェンシ・バルブ注意喚起ラベル作成、完成車への貼付合意 ② トレーラ・フレームの経年劣化の調査結果まとめ方確認
	トレーラ部会／業務委員会	① 全ト協依頼「トレーラの大型化による輸送効率化促進ハンドブック」作成について現状報告・共有 ② トレーラ輸送効率化広告(10/23)Bパターン原稿確認
21日	トラック部会／車両運搬車分科会	日本陸送協会との合同研修会の参加者確認と研修テーマにつき討議
22日	中央技術委員会／経年品質保証WG	① 点検整備実施の現状把握と原因分析 ② 点検整備実施率向上に向けた課題検討
23日	特装部会／サービス委員会	① メンテナンスニュース№40検討 ② 特装車安全マニュアル改訂版検討
26日	トレーラ部会／サービス委員会	① 各地方トラ協依頼「安全講演」20地域依頼、9地域済 ② 全ト協依頼「ラジオ放送安全啓発」の放送内容確認・修正
27日	環境委員会／架装物リサイクル分科会	環境ラベルについて「環境省ラベルデータベース制度」への登録内容審議・確認、環境省事前報告日程決定
28日	特装部会／ローリ技術分科会	① 技術委員会結果報告 ② ローリ用ホースネジの情報共有
30日	秋季会員大会 (東京ベイ有明ワシントンホテル)	2015年度秋季会員大会を開催 ▶P.3
30日～ 11月8日	東京モーターショー2015 (東京ビッグサイト)	車体工業会からは東展示棟(屋内)に小型3社、 東屋外展示場に13社14台を展示 ▶P.7

11月		
5日	特装部会／粉粒体運搬車技術分科会	① 特装技術委員会の結果報告 ② 取説で使用する部品用語の共通化検討
	トレーラ部会／技術委員会	① R13制動装置適用による「2013年度版点検整備方式」について改定案確認・審議 ② 「幌型トレーラの構造要件に係わる計算式」について検査法人とのすり合わせ状況確認・内容共有
	資材部会／燃焼性試験実態調査WG	① 2015年度実態調査実施状況報告 ② 実施要綱細則等の改正について検討
6日	特装部会／サービス委員会(新潟)	新潟トランスス(株)の工場見学会実施 ▶P.15
11日	バス部会／技術委員会	① バス車体規格集改定内容の審議 ② JIS「バス用シートの形状及び寸法」の内容確認
13日	中央技術委員会／ テールゲートリフト技術分科会	① 番号標表示に係る新基準情報の共有 ② R58第3次改訂情報共有
	中央技術委員会／ R58第3次改訂対応WG	現行突入防止装置の諸元まとめ
	トラック部会／工場見学会(愛媛)	(株)井関松山製造所の工場見学会を実施 ▶P.16
	トレーラ部会／工場見学会(熊本)	(株)イズミ車体製作所、(株)井関熊本製造所を見学 ▶P.16
16日	第4回チャレンジ5推進委員会	① 異業種ヒアリング内容の共有 (10月～11月 異業種3社の訪問ヒアリング実施) ② 車体架装の成長戦略についての継続論議 ③ 年度後半の活動内容について論議

17日	環境委員会／架装物リサイクル分科会	① 環境ラベルについて「環境省ラベルデータベース制度」の内容について環境省事前報告(11/16)結果確認・修正 ② 環境JABIA規格見直し内容審議・合意
18日	トラック部会／業務委員会	① 営業業務のルール原案につき討議 ② 資材・部品の購入価格変動調査結果につき意見交換
	バス部会／ワンマン機器委員会	① JABIA規格「バス用乗降中表示灯」改正案審議 ② JABIA規格「ワンマンバス放送装置」改正案作成 ③ 行先表示器LEDカラー化課題確認
19日	特装部会／塵芥車技術分科会	① 技術委員会結果報告 ② 塵芥車製作作業等のJABIA規格化、検討 ③ 消防向け講習テキストの見直し検討
	バン部会／技術委員会	① 標準化、共通化項目の進捗状況報告と論議 ② 中央技術委員会各WGの推進状況を委員間で共有化 ③ フェリー等外部電源使用時の漏電火災対応につき討議
	バン部会／技術委員会(東京)	日本冷凍空調工業会と合同意見交換会を実施 フロン法改正とフェリー火災対策の対応等につき討議
20日	環境委員会／ 架装物リサイクル分科会(埼玉)	JTP/ELV様の工場見学会実施 ・新明和工業(株)佐野工場、ジェイ・バス(株)宇都宮工場を見学 ▶P.12
	トラック部会／技術委員会	① 調査研究、標準化、共通化項目の進捗報告と進め方論議 ② 中央技術委員会各WGの推進状況を委員間で共有化
	第3回安全衛生会議	① 不安全行動の災害事例の共有 ② 会員提供用フォーマットの検討
24日	特装部会／ 脱着車技術・業務合同分科会	① 脱着車解説本の見直し検討 ② 番号標表示に係る新基準の経過報告
	トラック部会／ 車両運搬車分科会(東京)	日本陸送協会と合同研修会を開催 最近の法規改正動向、安全装備の改善等意見交換実施
	トレーラ部会／業務委員会	① 全ト協依頼「ラジオ放送安全啓発」の放送内容確認・アナウンス役決定 ② トレーラ生産台数下半期まとめと情報共有
25日	バス部会／ 塗装技術者向け勉強会(兵庫)	塗装技術者向け勉強会の実施 ▶P.17
	トレーラ部会／サービス委員会	① 各地方トラック協会「安全講演」21地域依頼、16地域済 ② 全ト協依頼「ラジオ放送安全啓発」の放送内容確認・合意 ③ サービスニュース見直し内容確認・合意
26日	特装部会／サービス委員会	① メンテナンスニュース№40検討 ② 特装車安全マニュアル改訂版検討
	トレーラ部会／製品安全委員会	① 国交省協力依頼、安全啓発のための「火災ビデオ作成」について推進することを合意 ② トレーラ・フレームの経年劣化の調査結果内容確認・合意 ③ 日整連より協力要請「整備主任者技術研修」の講演原稿内容・合意
27日	環境委員会／工場見学会(福岡)	架装物リサイクル分科会、工場環境分科会合同で 日産車体九州(株)を見学 ▶P.12
	中央技術委員会／経年品質保証WG	① 点検整備実施率向上に向けた課題検討 ② 制度骨子案作成
	特装部会／清掃車小委員会(富山)	部品メーカー(株)スギノマシンの工場見学会実施 ▶P.15
30日	第3回広報委員会／ 創立70周年史作成WG	① 創立70周年史の方向性合意 ② 車体NEWS冬号記事の校正と春号企画の論議 ③ 2015年度広報活動事業計画の進捗状況確認



木俣 博光 CEO／代表取締役社長



DATA

- 本社 〒264-0007
千葉県千葉市若葉区小倉町1301
TEL 043-231-8211
FAX 043-231-8466
URL <http://www.ea-net.co.jp/>
- 資本金 1,000万円
- 従業員 45名
- 事業所規模(本社工場)
敷地 約14,000㎡
建坪 約2,442㎡
- 車体工業会加入
2005年(パン部会)



(株)永光自動車工業

「客良し」「店良し」「世間良し」。
“三方良し”の心得で行う知的経営。

就任前は大学で教鞭を執っていた木俣社長は、現在も多忙の中、講師として大学に招かれる異色の経営者である。コンピューターと計測器を駆使した緻密な設計と、それを形にする優れた職人の技術力を組み合わせた先進的な経営で(株)永光自動車工業を率いている。

取材／車体工業会事務局次長 兼 業務部長 色摩 隆一

● 特徴・沿革

(株)永光自動車工業は1979年、東京で修業を積んだ先代社長が自動車整備工場として創業した。

当初は車検整備を中心としていたが、大型車の車検も対応していたため、ボデー修理等も請負い、創業10年目には本格的に架装を手がけはじめた。周辺顧客の利便性向上のため、ワンストップサービスの実現を目指し、整備、板金、販売事業に加え、電装系・冷熱系の技術や設備の拡充、そして設計、製品開発へと業務を順次拡大していった。現在の木俣社長へ引き継がれた2005年に車体工業会へ加入し、架装事業を拡大。現在では架装を主たる業務としている。

木俣社長は、大学において教鞭を執っていた経歴を持つ異色の経営者である。情報処理学を専門とし、CADや強度・構造計算のエキスパートでもある。自らが得意とする情報処理技術を駆使した設計と、長年培われてきた職人の技術を組み合わせ

ることで、架装事業を拡大する可能性を見出した。

コンピューターを駆使した徹底的な材料・強度計算は、5kg以内の誤差で設計を行うことができるという。的確な重量を確保できることは、運用コストやコンプライアンスにおいてユーザーに大きなメリットをもたらし、高い満足感を提供している。

異業種出身だからこそ、自由で斬新な発想ができ、顧客ニーズに対応するため様々な努力を続けることができる。設計段階で多くの手間と時間をかけることで、他社が手を出しにくい領域を開拓することに成功し、就任以来、顧客を増やし続けている。



広い敷地を利用して、年に一度顧客を招待する「感謝祭」は大盛況

● 製品

— 御社の業務の特徴についてお聞かせください。

お客様が求める以上の製品を設計することを心がけています。強度を測定する計測器や計量器等の設備を常に拡充し、活用に努めています。

車検を通る重量を確保するために、計算に次ぐ計算によって、適切な数値をはじき出す作業は大変手間がかかることです。設計をしっかりと行うことで、求められる重量を達成するようにしています。また正確な設計図は現場での作業効率の向上につながって、優れた職人の技術を更に生かすことができるのです。



産学連携で大学と共同開発した「選挙カー」には問合わせも多い



モニターで顧客はWeb上から進行状況を確認できる



後方に5m伸ばし、5tの機械が積載可能な日本初の「スライドカー」



様々な種類の架装車両を製作

— どのような車体を手がけているのでしょうか？

消防団車、移動花屋、医療防疫車、霊きゅう車、レッカー車、移動販売車、ポンプ車、事務室車等、数え上げればきりがないほどの多種類の架装を手がけています。

17社に断られたという難しい塗装も弊社で考案した技術で対応して、お客様に満足していただきました。

綿密な計算に基づいた設計、腕の良い職人の技術、そして各種申請用の書類を作成する実務能力の3つが揃っていますので、どのような架装でも手がける自信を持っています。



移動銀行用の事務室車両は内装もすべて自社製

— 御社の経営方針は？

売り手と買い手がともに満足し、また社会貢献もできる「三方良し」の心得を経営の礎としています。

社員全員が知恵・知識・技術でお客様を満足させることができ、仕事を心から楽しめる知的プレイヤーになることを目指しています。

● 人

— 御社の特徴は？

「挨拶を大切に」「お客様に感謝する」など、部署を横断した“企業文化向上推進委員会”を設立し、言いたいことが言える明朗な会社の雰囲気を作るようにしています。

企業文化の向上は、働きやすい環境を生み出し、従業員の成長を促します。それは会社にとっても高い生産性につながります。生産性を高めることで、無駄な時間を削減するこ

ともでき、さらなる従業員の技術力の向上を促進することができます。

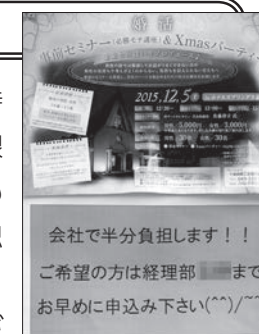


— 次世代の教育について

従業員の自主性を尊重し、従業員一人ひとりの成長を促すようにしています。教育や研修には費用を惜し

みません。時間の許す限り、勉強してもらいたいと思います。

従業員が家庭を持ち安定した生活を目指すことは、充実した仕事をしていく上でもプラスになることです。婚活パーティー等があれば参加費用を会社が半分負担しています。



個性の時代を彩る内装材フィルム

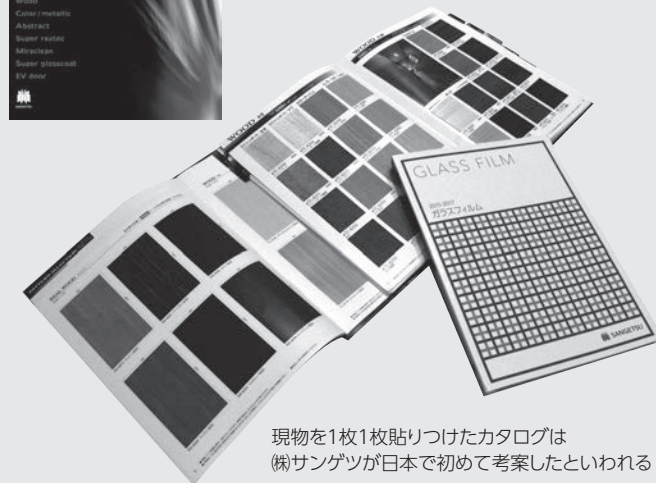
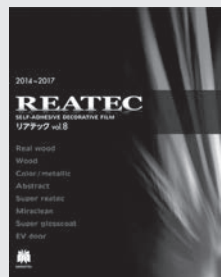
(株)サンゲツ

名古屋市に本社を構える(株)サンゲツは嘉永年間に創業した「山月堂」を前身とする老舗企業であり、壁紙・床材・カーテンを中心とした商品を専門に扱うインテリア業界最大手の東証一部上場企業である。多種多様の国内外メーカー各社が持つ良質な製品を生かした商品を企画・販売している。車体関連では主に内装用フィルムを扱っている。

現物カタログのパイオニア

(株)サンゲツが取扱う商品カタログには、実際の商品をカットした「現物サンプル」が貼付されている。

この実物カタログは、創業家一族であった日比賢昭前社長が、趣味である昆虫採集からヒントを得て日本で初めて発案したといわれている。(株)サンゲツでは、この実物カタログを全国に限らず展開している。カタログは同社の代表的な営業ツールであり、カタログ作りには膨大な労力を費やしている。



現物を1枚1枚貼りつけたカタログは
(株)サンゲツが日本で初めて考案したといわれる



朝比奈 啓祐
インテリア事業本部
壁装事業部
事業推進 担当課長

インテリア業界の流行の変化は急激だ。同社では2～3年のサイクルで商材の半分を入れ替えるため、フィルム分野だけでも毎回200～300種類の製品を企画する。流行を捉えるマーケティングと日進月歩で進化する商材の徹底的なリサーチは商品企画の大命題となっており、担当チームは常にトレンドを予測するためのアンテナを張り巡らせている。壁紙やカーテンで人気がある色や柄を、フィルム製品に展開していく等、インテリア全般に精通している同社ならではの強味を生かして、豊富でフレキシブルなラインナップを揃えていく努力が続けられている。

一人ひとりの個性に応える製品群

(株)サンゲツの「リアテック」は数百種類から選べる豊富なデザインを揃える内装フィルムだ。現代では伐採することが不可能な希少価値の高い木材を再現した「黒柿」デザインは、高価な骨董品を入手してサンプルを作ったこだわりの商品で人気も高い。大理石やレンガの石目、自然界には存在しない木地など、実物のサンプルが貼られたカタログは印刷にはない美しさがある。オリジナルデザインのフィルムを1枚から作るデジタルプリントにも対応し、建築関係だけではなく、キャンピングカー、移動販売車、健診車等の内装にデザイン性が求められる場所や、トラックやヨットのキャビンの内装にも使われている。

「機能性ガラスフィルム」は、貼るだけで「飛散防止」「UVカット」「遮熱」「日照調整」「防虫忌避」等の機能を付加することができる。例えば、透明性を保ったまま断熱効果を高めるフィルムは鉄道車両に採用されている。2015年に発売した低反射フィルムはガラスの反射を抑えて視認性を向上するのでショーケースを持つ店舗の引き合いが多い。

カタログで実物を見て、少ない量から試すことができる(株)サンゲツのフィルムは、こだわりの個性や付加機能を求めるカスタマイズ要望に応えることができるので、使い道はユーザーのアイデア次第で広がっていく。

(株)サンゲツ

快適な住空間の提供を通じ、より豊かな生活を実現するための役割と責任を担っています。

【本社】〒451-8575 愛知県名古屋市中区西区下1-4-1
Tel : 052-564-3111 <http://www.sangetsu.co.jp/>

私たちは資材部会を専門分野ごとにグループ分けを行い、3分科会13グループからなる「ビジネスネットワーク」を設置しております。この「ビジネスネットワーク」は会員の強い連携と結束を実現し、架装メーカーに対して、積極的な協力体制を目指しています。

「VOICE」では、部会会員会社の紹介や製品が開発されるまでのエピソード等を紹介していきます。

ガラスと化学の技術で光を制御

セントラル硝子(株)

セントラル硝子(株)は、1936年に山口県宇部市に設立された宇部曹達工業(株)を母体とする東証一部上場企業である。社名からガラス専門企業をイメージするが、ガラス関連事業のみならず化学関連事業においても医薬品の中間体をはじめ、環境や半導体関連など、数多くの最先端の材料を開発・販売している。

「薄く・軽く」から「高機能」へ

自動車用ガラスも他の資材と同様に、重量の軽減は常に求められている課題である。段階的に薄くしてきた長い歴史があり、初期には6mm程度の厚さであった自動車用ガラスは現在最も薄いもので3mm以下の厚さになっている。遮音性や安全性などの種々の問題との兼合いから、どこまで薄くできるかが今後の課題である。

軽量化と同じようにガラスに求められる機能として、主にUV(紫外線)カットとIR(赤外線)カットが挙げられる。

紫外線を抑えることは、搭乗者の日焼け対策だけでなく、ダッシュボードやシートをはじめとした車内インテリアへの負荷を減らし、退色や経年劣化を低減させることができる。

赤外線は、太陽光線に含まれる熱エネルギー部分であり、車内温度の上昇原因となっている。赤外線を阻むことは車内空間を快適に保つとともにエアコン効率を高め、燃費の向上に直結するので、IRカットのニーズは、年々大きくなっている。



ガラスと化学の技術の融合で
機能性を高める強化ガラス



セントラル硝子株式会社
松浦 俊朗 硝子生産技術センター 課長
高松 敦 硝子生産技術センター 次長兼商品開発グループ長
辻 篤史 自動車機材部 課長

光制御技術で機能を両立「UV-IR Cut Glass」

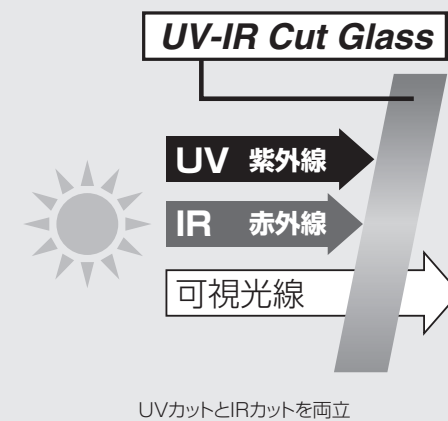
自動車には安全ガラスの使用が義務付けられている。フロントガラスには割れた際にガラスが飛散しないように、2枚のガラスにフィルムを挟んだ「合わせガラス」を使い、ドアガラスには事故や脱出時に、細かく割れる「強化ガラス」が使われている。

「合わせガラス」はUVカットや遮熱等の機能を持つフィルムを挟むことで機能性を高めることができる。

「強化ガラス」は1枚のガラスであるため、機能性の向上が遅れていた面があるが、近年における車内快適性のニーズや環境性能への意識向上が追い風となり、ドアガラスのUVカット機能向上が急務となった。

この課題解決のため、セントラル硝子(株)の特徴であるガラスと化学の技術の融合を図りながら、同社の培ってきた組成開発技術、光制御技術を駆使することで短期間での開発を成し遂げた。

更に、UVカットの完成とほぼ同時期に、IRカットの強い要望が出てくる。再び技術開発陣に課題が提示されることになったが、IRカットのニーズを予測し、開発を進めていたため、短期間で、UVカット機能とIRカット機能を両立させた「UV-IR Cut Glass」の製品化に成功した。



UVカットとIRカットを両立

セントラル硝子(株) 代表取締役 社長執行役員 血澤 修一
「ものづくりで築く より良い未来」
ガラス、化学両部門の技術を融合して、幅広い未来をつくっていきます。
【本社】〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-7-1 興和一橋ビル
Tel : 03-3259-7111 <https://www.cgco.co.jp/>

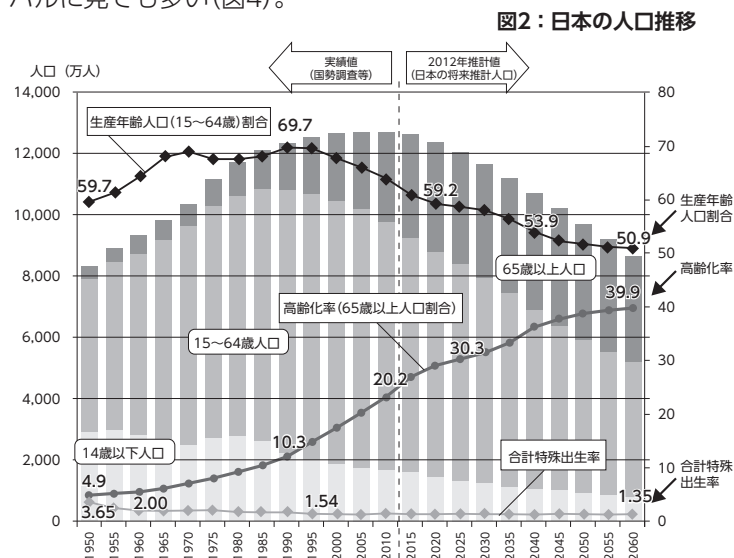
将来にわたり活力ある日本としていくため地方の特徴を活かし、自律的で持続的な社会をつくりあげていくことを目指し、2014年12月2日に「まち・ひと・しごと創生法」が施行された。2015年6月30日には「まち・ひと・しごと創生基本方針2015」が閣議決定され、本格的な活動がスタートする。今回は取り巻く環境を含め「まち・ひと・しごと創生」について紹介する。

Q1 「まち・ひと・しごと創生」とはということ？

まち・ひと・しごと創生は、日本社会が少子高齢化を迎え人口減少が予測される中、各地の特徴を活かし地方も元気にしていくことで活力ある日本社会を皆でつくりあげていこうというものである(図1)。行政、民間を問わず、アイデアを出し合い、連携して取り組んでいくことが大切である。

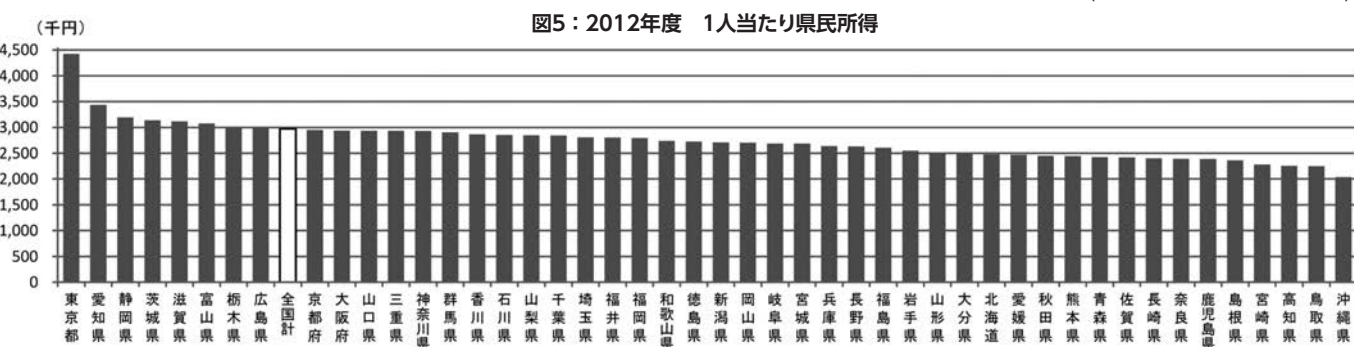
Q2 地方創生をめぐる現状認識は？

推計では我が国の人口は2050年に1億人を割り込み、高齢化率は2060年に40%程度となる見通し(図2)が示されている。また、東京へのいわゆる一極集中が進み(図3)、地方の人口減少が想定されている。なお、東京、横浜圏の人口はグローバルに見ても多い(図4)。



出典：総務省「国勢調査」及び「人口推計」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(2012年1月推計)出生中位・死亡中位推計」(各年10月1日現在人口)、厚生労働省「人口動態統計」

更に、東京への一極集中は1人当たりの県民所得にも表れている(図5)。



出典：内閣府経済社会総合研究所

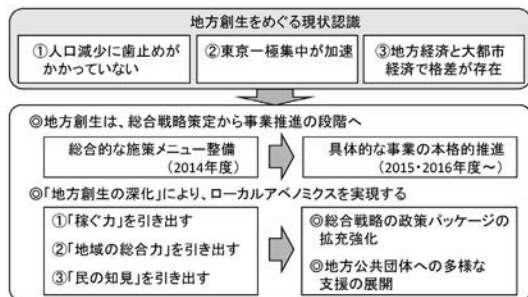
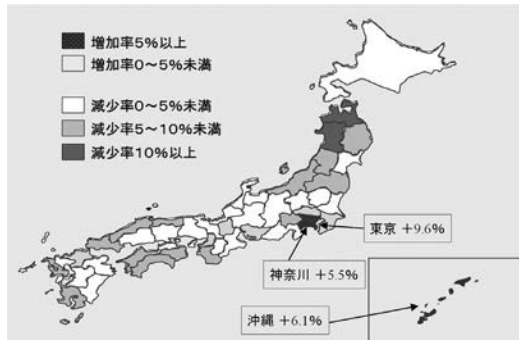


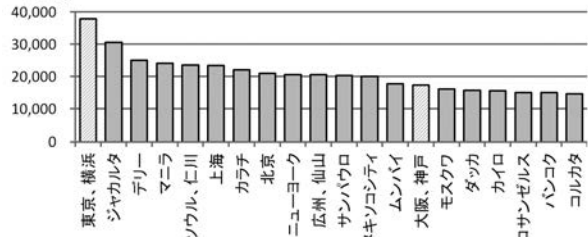
図1：まち・ひと・しごと創生基本方針2015概要(6月30日閣議決定)

図3：都道府県人口増減(2004年、2014年比較)



出典：総務省統計から作成

図4：都市的地域の推定人口



出典：Demographia World Urban Areas(11th Annual Edition:2015/01)

Q3 現在進められている取組みは？

現状認識を踏まえ、各地がそれぞれの特徴を活かし自律的な取組みを検討し、具体的な計画を策定のうえ内閣府地方創生推進室に提出。この中で地方版総合戦略に関する施策と判断された案件に対し交付金が支給され、地方の責任で実施に移される。

地域住民生活等緊急支援のための交付金(地域消費喚起・生活支援型)の取組み状況について8月17日に内閣府が公表した内容は次のとおり(図6)。

なお、3月24日に交付決定した予算額2,500億円の99.3%にあたる、2,483億円については、6月30日までに約9割の事業が着手済み(※1)。

また、プレミアム付商品券等の域内消費喚起策を実施する34都道府県、ふるさと名物商品・旅行券等の域外消費喚起策を実施する46道府県について、全ての自治体が事業着手済み。

図6：交付対象事業の概要

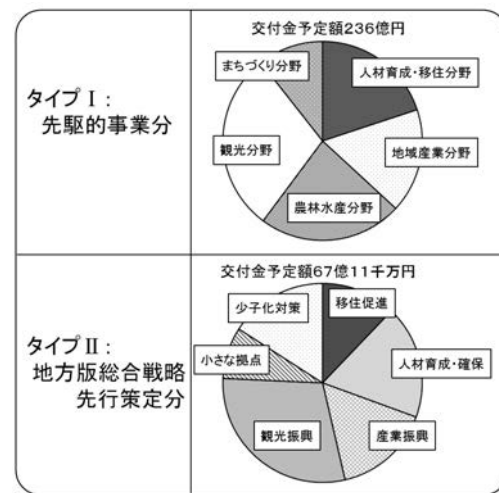
分野	国→自治体へ交付決定 (3月24日交付決定時点)		事業者手済み(※1)	
	事業数	事業費(A)	事業費(B)	事業費率(B/A)
プレミアム付商品券等 (域内消費喚起策)	2,099	1,589億円	1,413億円	89%
ふるさと名物商品・旅行券等 (域外消費喚起策)	620	615億円	497億円	81%
低所得者等向け灯油等購入助成	68	6億円	4億円	66%
低所得者等向け商品・サービス購入券	309	94億円	78億円	83%
多子世帯等支援策	689	179億円	149億円	83%
全体	3,785	2,483億円	2,141億円	86%

※1：完了済みの事業、事業者等との契約等実施済みの事業、及び契約等の手続中の事業を含む。
注：金額については暫定であり、変更することがありうる。

Q4 これからの取組みは？

内閣府地方創生推進室が11月10日に交付対象事業の決定について公表した(図7)。2つのタイプに区分され、ともに人材育成と住民増を図るため産業振興への取組みが中心となっている。また、現在までに地方が独自に取り組み活性化に繋がられている例が多々ある。

図7：交付対象事業の内訳



＜徳島県上勝町(人口1,701名 11月1日現在)での「彩事業」＞

27年程前にわずか4軒の農家で始められた「彩事業」は、上勝町の主力産業にまで成長。しかも、その主な担い手は高齢の女性たち。生き生きと働くその姿が全国に発信され、「彩事業」のみならず上勝町のブランド化にも貢献。

更に、若い人が移住し、人口の自然減を補っている。



東京築地市場に並ぶ上勝の「彩」。主に都内の料亭、料理店で利用される。東京には、美しい「葉っぱ」はない。徳島の山奥深いところだからこそ、いい商品が生まれる。上勝町の元気をいっぱい届けてもらい、自然の大切さも教わっている。

「まち・ひと・しごと創生」はスタートした。これまでとは異なり、国、地方、民間の連携で活動を継続し、成果を出していくことが求められている。そのためには都道府県、市町村が果たす役割、そして民間企業が果たす役割が従来以上に重要となる。地方創生をめぐる現状認識を変えるため、一体となって活動し日本そのものの創生に繋げていくことが大事。

上勝町のような例はまだまだたくさんあるはず。真のコンパクトシティとなっていくことが「創生」そのものである。

Q5 「働くクルマ」の役割は？

ひとの移動、物流は「まち・ひと・しごと創生」には欠かせない。社会の動きを的確につかみ製品を投入していくことが「働くクルマ」の役割である。地方の活性化に向けた新たな架装技術への取組みも行い、産業構造の変革を進めていくことが車体業界に求められている。また将来、ドローンとの協業が社会生活をもっと豊かにしてくれるということも意識し製品開発を行わなければならないかもしれない。

第11回：エア圧送式粉粒体運搬車

粉粒体運搬車は、バラセメント運搬用と飼料運搬用とそれ以外の3種類に大別される。

今回の「働くクルマたち」では、バラセメント運搬用として広く採用されているエア圧送式粉粒体運搬車を紹介する。

エア圧送式粉粒体運搬車の誕生

写真提供：極東開発工業(株)

昭和30年代までは、セメント運搬は「カーゴ車」でのセメント袋運搬か、「スクリー車」でのバラ輸送が主流であったが、より効率的な作業環境の実現という市場要求に答える形で昭和40年代初頭「エア圧送式粉粒体運搬車」が誕生した。

エア圧送式粉粒体運搬車には、作業の効率化以外にもバケットコンベア等の大掛かりな設備が不要になる、更に、架装物が軽くなり積載量をより多く確保できるといった利点があり、広く市場に受け入れられ現在のようにバラセメント輸送の担い手となるに至った。

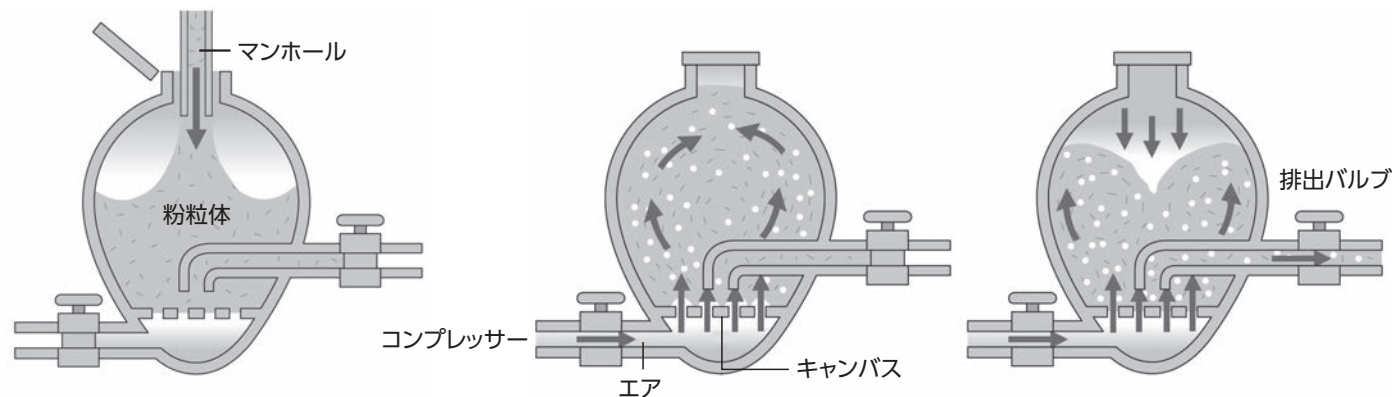


初期のエア圧送式粉粒体運搬車

エア圧送式粉粒体運搬車とは

セメントに代表される粉や、様々な種類の粒を乾燥状態で運搬し、空圧で排出する車両である。大きな構成要素としては、まず粉や粒を積載するタンクがあり、エア源としてのコンプレッサーからなる。コンプレッサーはシャシのPTOから動力を得て、タンク内にエアを供給し、所定の圧力まで加圧した所でタンクの排出バルブを開放し積荷を排出する仕組みである。排出された積荷は、排出配管を通過し、作業現場のサイロに貯留される。

圧送原理



① まず、タンク上部のマンホールより粉粒体を積み込む。

② 次に、コンプレッサーからのエアをキャンバスを通してタンクに供給すると、粉粒体とエアが混合し流動化状態となる。また排出に向けて徐々にタンク内圧力が上昇する。

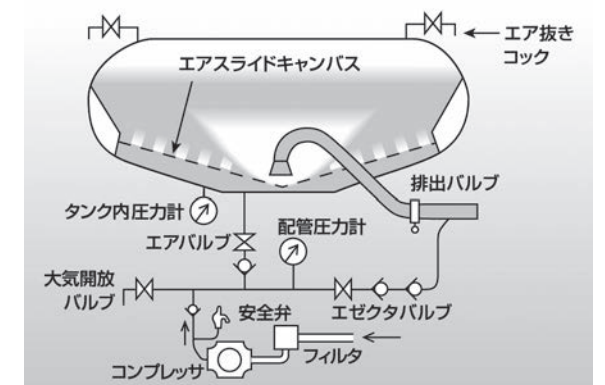
③ 最後に、排出バルブを開放し、粉粒体をタンク外に排出し、サイロへと圧送する。

バリエーション

① エアスライド式

写真提供：新明和工業(株)

右図のようにタンク底部に設けたエアスライドキャンバスの布目から噴出すエアにより粉粒体を流動化させ、タンク中央部の排出口に集める。セメント、フライアッシュなどの流動性が良い粉粒体の排出に適した排出方式である。タンクが一室なので、排出バルブの操作が1か所となり作業性が良い。

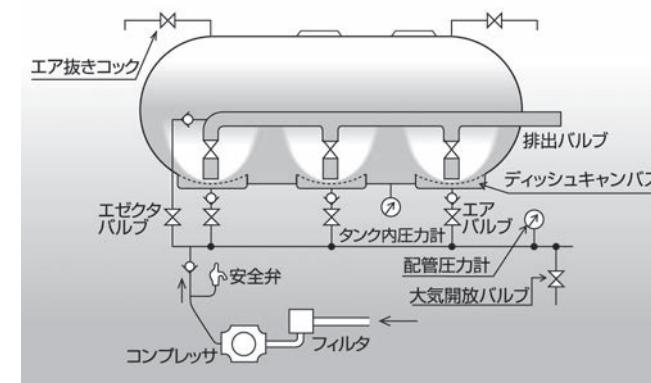


エアスライド式構造図

② エアレーションブロー式

写真提供：極東開発工業(株)

下図のようにタンク内を多層に分割、タンク下部にすり鉢を形成し、タンク壁面の滑り性を良くすることにより、様々な種類の粉粒体が排出可能な汎用性の高い車両である。特に粗粒子排出に威力を発揮する。



エアレーションブロー式構造図



ダンプ式

③ セミトレーラ

写真提供：極東開発工業(株)

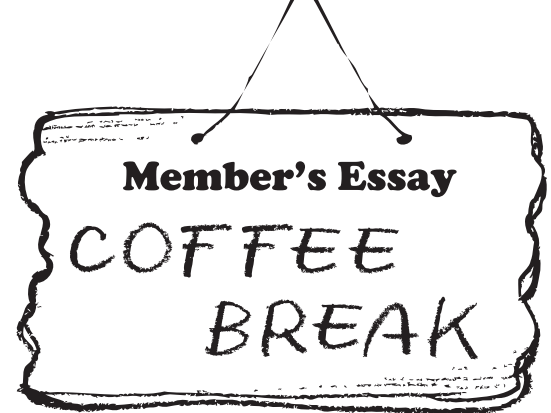
排出構造は、エアスライド、エアレーションブロー何れかの構造を採用し、長距離・大量輸送に威力を発揮する。



生産台数

(単位：台)

車種	年度	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
粉粒体運搬車	バラセメント	271	196	174	228	347	427	486
	飼料	195	285	275	197	231	214	194
	その他	48	49	63	82	51	63	65
合計		514	530	512	507	629	704	745



畑仕事でリフレッシュ

クラリオン㈱ 国内OEM営業部 日高 卓

私の住まいは、東京都国立市です。新宿からJR中央線で約30分のところで、春は国立駅前の大学通りから桜通りにかけての桜がとてもきれいな多摩地区では桜の名所になっています。また富士見通りからは、富士山もはっきりと見ることができ、街の景観は良いところです。

さて、2年ほど前に家の周りを自転車で走っていると、広い畑を複数に区画された家庭菜園として貸出しますという募集看板を見ました。私は、定年を迎えリタイヤしたら温泉のある田舎暮らしも良いなと思っており、同時にそこでは畑もやりたいという気持ちは前から持っていましたので、



整地したばかりの畑

いてあり、自由に使い、もちろん水道もあります。

とは言うものの一度もやったことのない畑仕事でどうやって野菜をつくるのかでしたが、まず野菜作りの本を買い、売っている苗からではなく、種から作る挑戦をしました。

助かったのは、同じ畑をしているリタイヤされた先輩方や近くのお百姓さんから色々と教えてもらい、初めての収穫は春菊、大根、カブ、ホウレン草、大葉とまずまずの出来栄えで採り立ての野菜を家族で美味しく食べました。



夏には枝豆を収穫

3シーズン目を迎えた今は、キャベツ、白菜、島らっきょうにも挑戦しています。

美味しい野菜作りも良いですが、地元の知らない人生の先輩方と畑作業の話し、指導を受け、また人生経験(たまに早く帰りたい時に捕まると?)の話などを聞いたり、その先輩の収穫された野菜をもらって帰ったりで、最近は畑に行く楽しみが変わってきています。

これからは寒くなりますが、先輩方との楽しい会話と採り立ての美味しい野菜でお鍋を囲み、心も身体も温まることができるように気合いを入れて今週末も畑作業に行ってきます。



孫と一緒に水を撒く筆者

子供の散髪

日産車体㈱ 車体開発部 塗装・防錆性能グループ 井古田 亘佑

『カットこうすけ』。私が家で子供の髪を切るときにだけ開店する散髪屋の名前だ。きっかけは、3年ほど前。それまで息子の散髪担当だった家内に「試しにカットしてみる?今なら夏だから、多少短くなくても大丈夫だよ」と言われて当時2歳になる息子の髪を切ってみたのが始まり。

使う道具は、おりがみを切る文房具はさみのみ。2つの社宅と現在の家、3度住む場所が変わっても散髪は必ずお風呂場だ。

今まで人の髪を切った

ことのない私は、家内に切り方を教わりながら切ってみた。教わると言っても、家内はプロであった訳ではなく、美容院で美容師の切り方を観察してきた程度。そのため、アドバイスは至ってシンプル“縦に髪を持って、縦にはさみを入れていく”のみ。そのアドバイスを頼りに、お世辞にも切りやすいとは言えないはさみを駆使して、やっとこさ切り終える。息子の髪形を見てみて、素人の割にはまあ出来た方かなと思っていると、家内から『わぁ、上手!!私が切るより綺麗な仕上がりがだね。』とお褒めの言葉をもらえ、散髪がちょっと楽しくなってきた。比較的大雑把な性格の彼女に言わせ



使う道具は折り紙用のはさみ

ると、ラフな髪型に仕上げつつも、キレイに整えるところは揃えて切るという技(?)がなかなかできないことらしい。確かに耳周りともみあげを整えるのは難しくまだまだ良くなっていると思っている。

それ以降、息子の散髪は私が担当。今まで気にも留めていなかったが、自分も散髪してもらうときプロの手元を観察するようになった。その見よう見まねを息子で試してみる。家内曰く、散髪する度に少しずつ腕を上げているらしい。自分も息子や家内の要望通りに切れると妙な達成感もあり、家族以外の人に息子の髪形を褒められると嬉しく思う。「お父さんに切ってもらったんだよ、カットこうすけ!!」と息子が言うと、顔には出さないがさらに嬉しい。そんな息子も5歳になった。息子が小学校低学年くらいまでは切らせてもらうつもりでいるが、その前に本人が断る日がくるのだろうか。息子の意思が先か、それとも自分のささやかなレベルアップで散髪を継続できるのか。密かな楽しみを、もう少し続けられたらと思う。



息子の散髪をする筆者

目指すはスクラッチプレーヤー、そして、タイガー・ウッズ

丸安㈱ 設計 大森 崇

非常に在り来りの趣味ではありますが、私は世の中に巨万という、ゴルフが三度の飯より好きな人間の一人であります。現在の腕前としては、100はもう叩きません。とはいえ、85から95までを行ったり来たりしています。そんなレベルでいうのも何ですが、目指しているのはHC(ハンディキャップ)0のスクラッチプレーヤーです。

私が勤める丸安㈱は、お客様のご要望を満たす一環として毎週土曜日を出勤日としており、アフターサービスを重

点に行っています。その関係で4年ほど前から日曜、月曜の休日スタイルです。私にとっては打って付けのスタイルであります。月曜日であれば、ゴルフ場も空いていますし、昼食付6,000円以下なんてざらにあります。同伴者が許すのであれば1.5ラウンドもやっています。

会社内でもゴルフ好きが集うようになり、ちよくちよくラウンドを共にするようになりました。設計部対営業部や居住地域別対抗戦などを行っており、ゴルフを通じて和が育まれるようになりました。勤務中についついスイングチェックをしてしまい、上司に小言を言われたこともあります。ゴルフは立派なコミュニケーションツールであると確信しています。

そんな中、ゴルフ好きの安藤社長にもこの活動が伝わり、たまには一緒にプレーをするようになりました。何名かで丸安コンペを開催する時には、社長がお客様のゴルフコンペに参加してゲットした景品を数点用意していただきます。その景品の争奪戦ともなればみんな欲が出てくるものです。

今、世界で活躍している選手でいいますとジェイソン・デイ、ジョーダン・スピース、ロリー・マキロイ、日本人でいうと松山英樹ですが、私が敬愛するゴルフ選手は今でもタイガー・ウッズです。アメリカの経済誌「フォーブス」が今年の最もブランド価値のあるアスリート1位に3000万ドル(約36億円)を付けてタイガー・ウッズが称えられました。そんなタイガー・ウッズをこれからもこよなく愛し、スクラッチプレーヤーを目指して邁進する所存でございます。



一番左が筆者

(株)シスコム
特装部
まつざわ あきや
松澤 明也さん



新しい技術や知識
を身に付けるのは
とても楽しいです

大好きな英語に
携われる毎日に
楽しみを感じます

日本フルハーブ(株)
購買部
くまさか まりえ
熊坂 麻里江さん



Q1 どんなお仕事ですか。

車体のボデーを架装する仕事をしています。溶接や塗装、金属加工等、内容は幅広いですが、お客様の満足のいく完成を目指して架装を行っています。

まだまだ一人前とは言えませんが、日々やりがいを感じる仕事です。

Q2 仕事で楽しいときは

常に集中しながら、気を張りながらの仕事ですが、先輩後輩と一緒に、時には冗談を交えながら楽しく仕事をしています。新しい技術や知識を身に付けながら作業できていることはとても楽しく感じています。

Q3 仕事でつらいこと

入社したての頃は、多くの失敗をしていました。皆さんに迷惑をかけてしまい、落ち込む時もありました。

早く覚えたい気持ちとは裏腹に、思うように作業ができなかった時は悔しさを感じていました。

Q4 これまでの仕事の中で印象に残っている出来事は？

毎回色々な架装を行いますが、やはり資源回収車の架装でしょうか…資源回収車は年間数十台作ります。街中で走っている姿を見かけると、ついつい目がいてしまい、自分が作った車かもしれないと思うと、嬉しくなってしまう。

Q5 御社のPRをしてください！

お客様に喜んで頂けるよう、一台一台丁寧に作業をおこなっています。従業員一丸となり、頑張っている会社です。ボデー架装のことなら何でも(株)シスコムへお尋ね下さい。

Q1 どんなお仕事ですか。

主に製品のスペアパーツやトレーラ部品の輸入業務をしています。また、食品等を運ぶトラック(温度管理車)用の冷凍機の発注管理業務も入社以来行っています。

Q2 仕事で楽しいときは

製品に自身が購入した部品が付いているトラックが走っているのを見かけた時です。また大好きな英語に携わる業務を任せていただくことができたので、日々の業務でも楽しみを感じています。

Q3 仕事でつらいこと

これまで大学で英語を学んできて、英語を活かすチャンスをいただけたのに、自身の勉強不足で通訳が全くできず、お客様や会社のために貢献できなかった時は申し訳なく思います。幅広い知識を少しずつ増やしていきたいです。

Q4 これまでの仕事の中で印象に残っている出来事は？

弊社が50周年を迎えた際、50周年プロジェクトの未来を考える(NEXTチーム)に選出されました。チームでバラがたくさんのスケルトンのデザイントレーラ(ローズモータィブ)を考案し、それが今でも様々なイベントで活躍していることです。

Q5 御社のPRをしてください！

弊社は主にドライバン、ウイング車、温度管理車をはじめ、コンテナ、トレーラを開発し、心を込めて手づくりしています。また、本社厚木工場では様々な種類のバラを育てており、年に一度「バラ観賞会」も行っています。お客様に満足していただけるよう精進して参りますので何卒よろしくお願いいたします。

DATA FLASH

2015年4月～9月 会員生産状況概要

① 特装車

- ・ 4～9月の累計台数は、僅かながら前年割れ、輸送系が減少傾向
- ・ これまで輸送系の好調を牽引してきたリヤダンプ車・ミキサー車が減少。作業系の塵芥車・脱着コンテナ車は維持

② 特種車

- ・ 4月～9月の累計台数は、前年比0.5%増
- ・ 警察車両が増加し、量産系は前年比1.6%増
- ・ 入浴車等の保健用、消防指揮車等の減少により、非量産系は同2.9%減

③ 平ボデートラック(除くシャシメーカー標準車)

- ・ 4月～9月の累計台数は、前年比1.7%増、代替需要の本格化により大中型平ボデーが需要拡大
- ・ 各社、6か月以上の受注残有。生産能力は限界に来ており、これ以上の増産は厳しい状況

④ パン

- ・ 4～9月の累計台数は、前年比6.4%増
- ・ 車種別には、ドライバン・冷凍車・ウイングが好調

⑤ トレーラ

- ・ 4～9月の累計台数は、前年比11%増で、4～9月全ての月で前年超え
- ・ 車種別には、主力のコンテナが大幅増、バンも増加

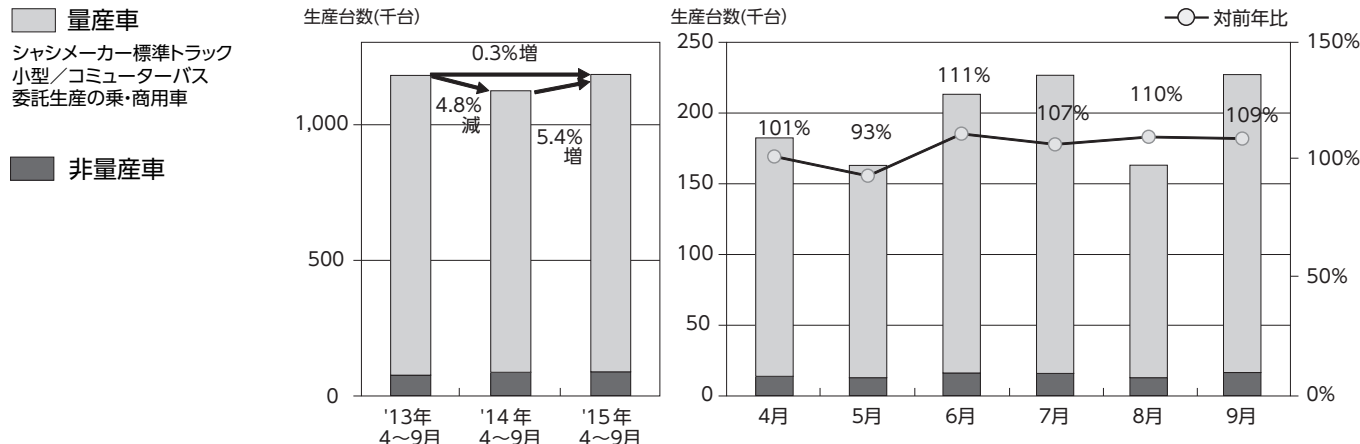
⑥ 大中型バス

- ・ 4～9月の累計台数は、前年比14%減、これは三菱ふそう向けが対象外となったため
- ・ 訪日外国人旅行者数の増加や新運賃制度によるバス事業者収益の改善等により大型観光はもとより、路線も前年を上回っており、日野&いすゞ向けは同20.5%増

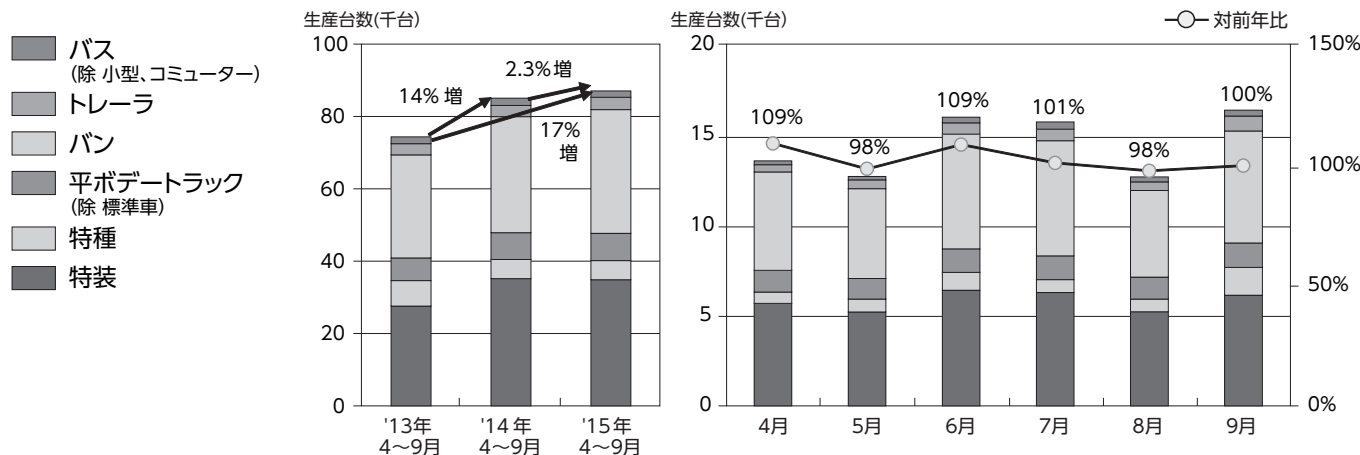
⑦ 乗用・小型商用車・軽

- ・ 4月～9月の累計台数は、前年比5.9%増
- ・ 国内向けは前年が消費増税の影響により台数水準が低かったことから、4月～9月の累計台数は、前年比7%増
- ・ 輸出向けは4月～9月累計で、前年比5%増

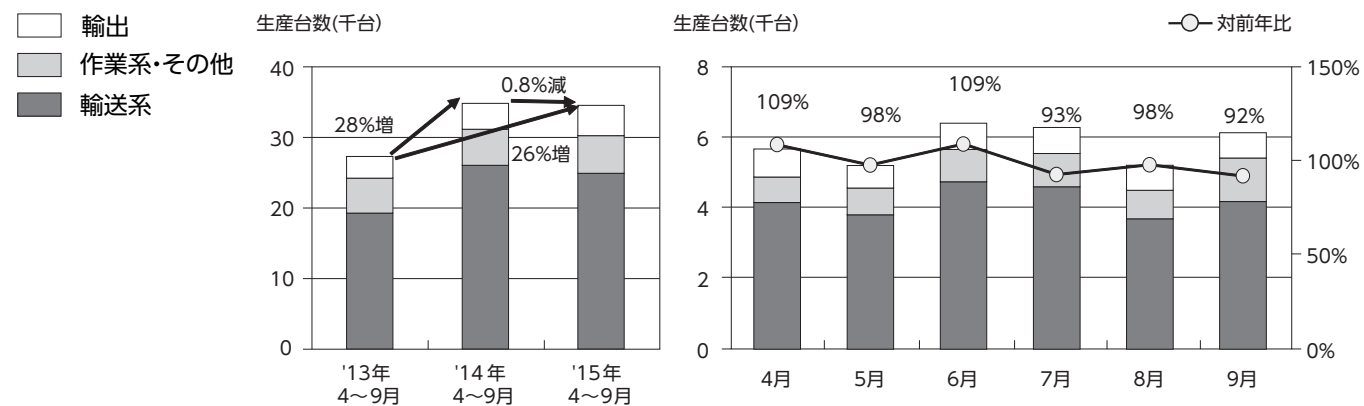
合計 (非量産車+量産車)



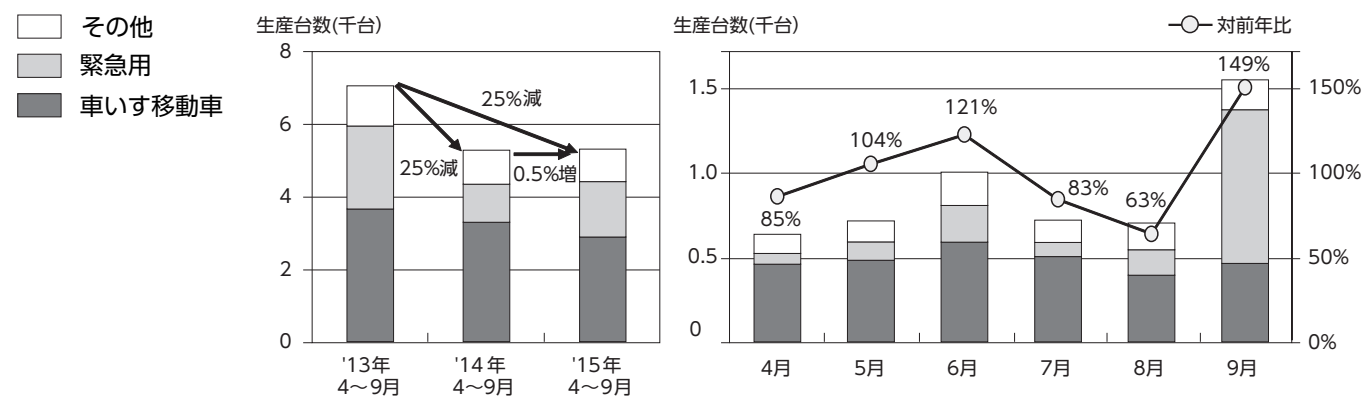
非量産車合計



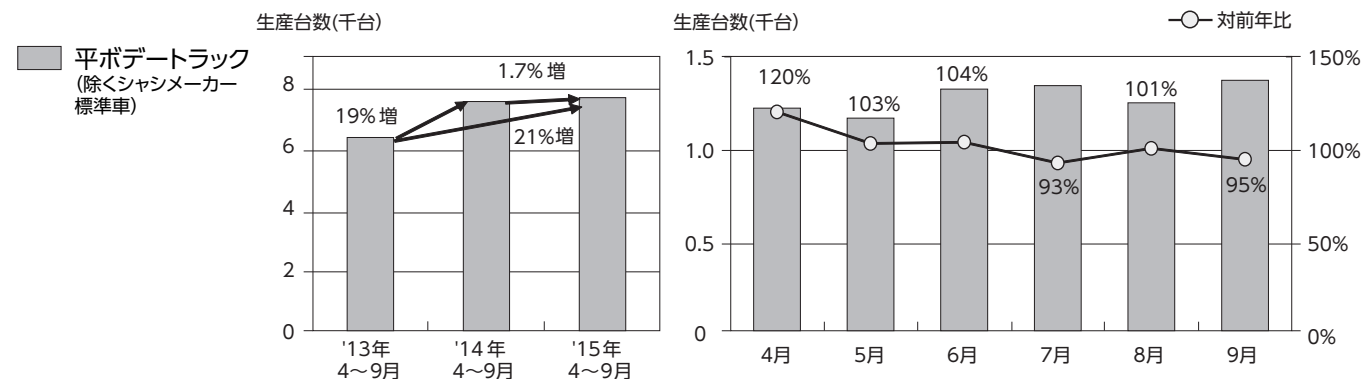
特装車



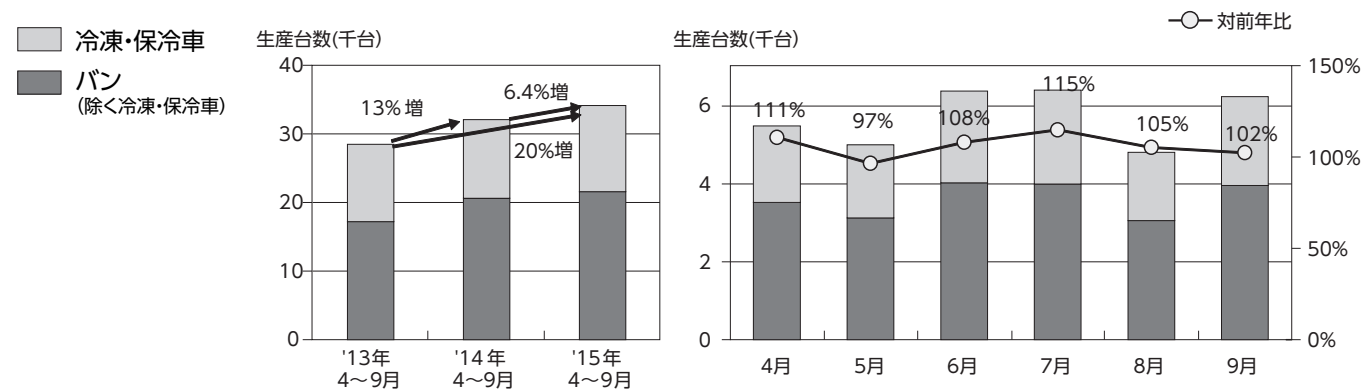
特種車



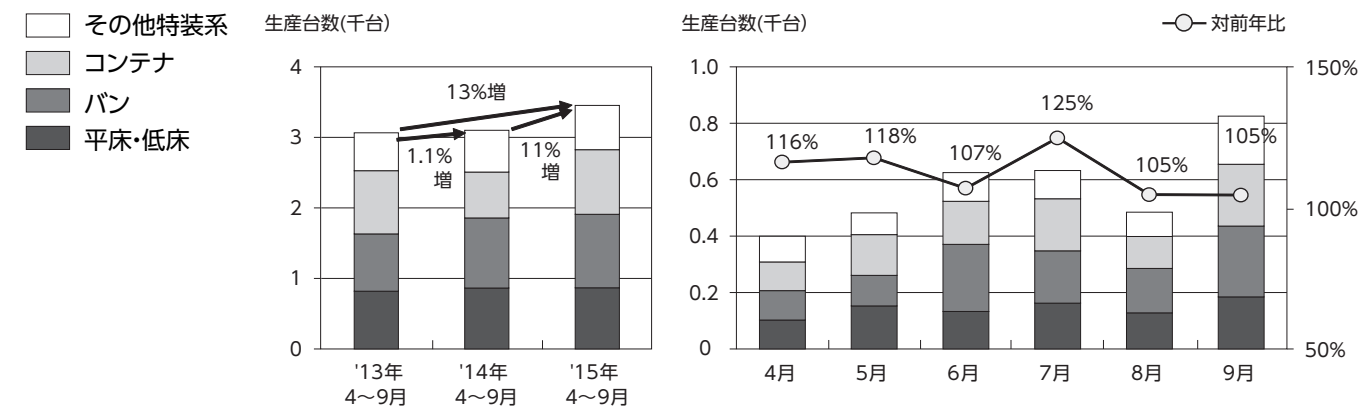
平ボデートラック



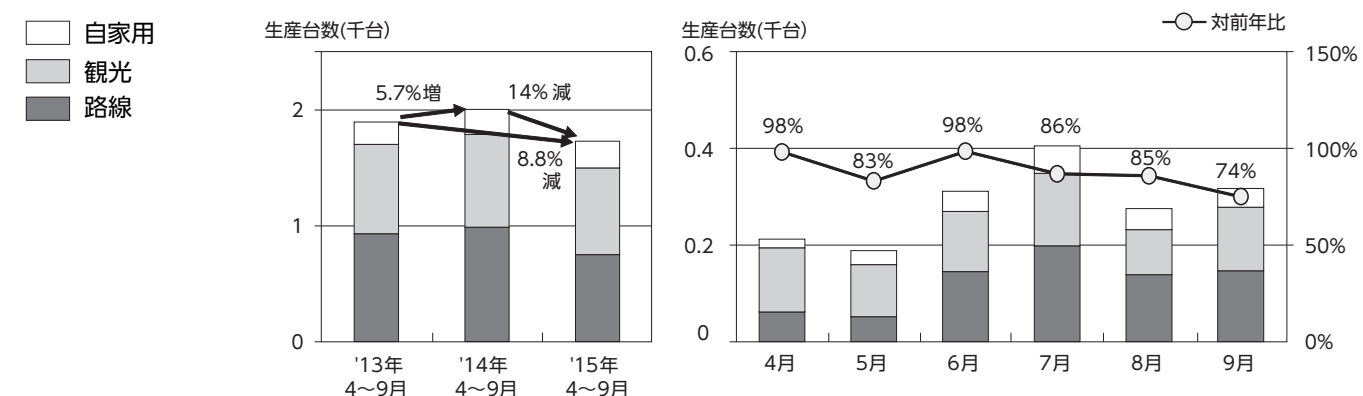
バン



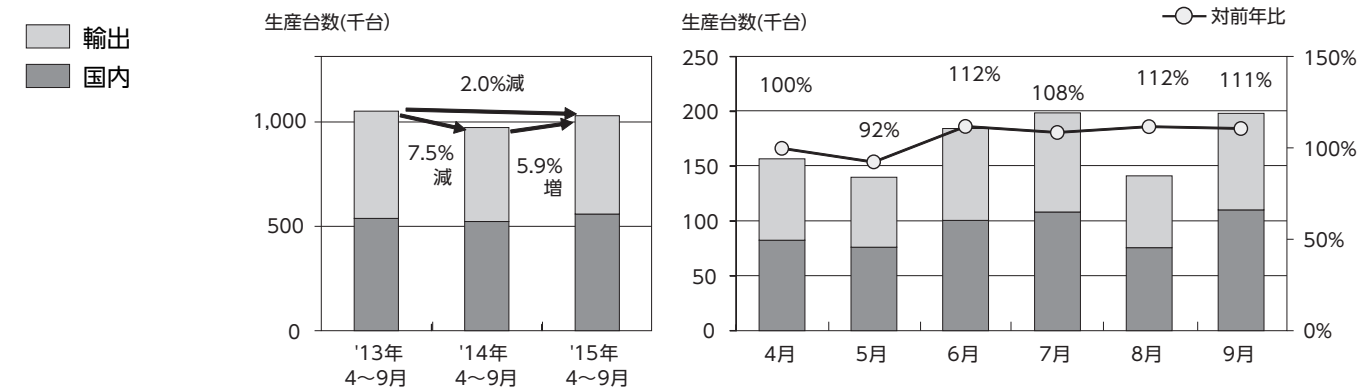
トレーラ



大中型バス



小型車 (委託生産の乗・商用車)



車体工業会会員生産台数の公表について

昨今の急激な景気変動にともなう業界全体の状況をいち早く社会全体へ公表するために、生産台数データを当会ホームページに公開しておりますので、下記サイトをご覧ください。

<http://www.jabia.or.jp/data/index.php>

第44回東京モーターショー2015が11月8日に閉幕した。今回も当会は合同展示を行いその様子は本紙で紹介させていただいた。当会のPR策として初めてお子様連れのご家族の方を対象としたペーパークラフトのワークショップを実施し、参加いただいた方からは好評であった。出展された会員の皆様にも運営でお手伝いをいただきありがとうございました。仕事とは異なり慣れない対応であったが、お互い連携し取り組めたことはうれしかった。様々なご意見もいただいているが当会のPR策としては一定の効果があったと思う。

社会生活ではいかに相互理解を深められるかが重要である。異なる考え方を排除するのではなく、認め合う気持ちを持つことが理解に繋がっていく。ピンポイントで極めて専門的な知識を持った人同士が理解し合うということが仕事では発生する。どんな仕事でも必ずお客様がいらっしゃる。直接的なおお客様の向こう側には間接的なお客様がおいでになる。そうした方に理解していただくことが回り回って仕事にも繋がっていく。PRとはそのための手段のひとつだと思う。(吉田)

表紙写真 新明和工業(株)製
について 脱着ボデートラック 7トン車級
「アームロール」

1976年の発売以来、国内トップシェアの新明和「アームロール」は、今夏7トン車級において15年ぶりとなるフルモデルチェンジを行いました。コンテナ脱着機能、チルト排出機能など、従来機からの主要機能はそのままに、架装物重量を約120kg軽量化し、積載量を向上させました。最大積載量をプラス100～200kg程度引き上げて登録できるので、輸送効率をさらに向上させることができます。

この会報「車体NEWS」は、主として自動車車体にかかわる法令改正等の動きを情報としてとりまとめ、春、夏、秋、冬の4回、季刊発行により関係方面の方々に毎回およそ1,700部を送付させていただいております。送付先は当工業会会員事業所他全国の大型車等の自動車販社、各都道府県のバス、トラック協会、バス、トラックの大手ユーザー、全国の経済産業局、運輸局、運輸支局、自動車検査(独)検査部・事務所、日本自動車車体整備協同組合連合会、軽自動車検査協会及び自動車関係団体となっております。

広告掲載会社

日本トレックス株式会社表2
スリーエム ジャパン株式会社表3
交通エコロジー・モビリティ財団表4

お知らせ

2016年 自動車工業団体
新春賀詞交歓会のご案内

- ◆日 時 2016年1月5日(火) 16:00～17:30
- ◆場 所 グランドプリンスホテル新高輪
国際館パミール3階「崑崙(こんろん)」
東京都港区高輪 3-13-1
TEL:03-3442-1111
- ◆参加費 1名につき 10,000円

技術発表会のご案内

- ◆日 時 2016年1月14日(木) 14:30～16:30
- ◆場 所 日本自動車会館1階 くるまプラザ会議室
- ◆内 容 会員各社の新技術、新製品に関する発表6件

<問合せ先>
一般社団法人 日本自動車車体工業会 総務部

新広報委員



田邊 仁也 氏
山田車体工業(株)
企画室主任(トラック部会)

業界内外に的確な情報をお伝えしたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

新事務局員



福井 清孝
総務部 課長

会員の皆様と心を一つに連携し、頑張ってください。どうぞよろしくお願いいたします。

車体NEWS
WINTER 2015 冬

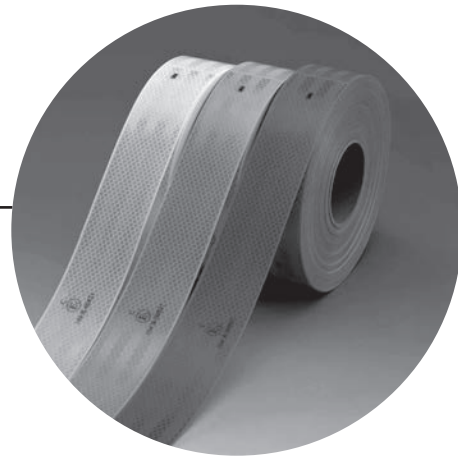
2015年12月15日発行

発行所 一般社団法人 日本自動車車体工業会
〒105-0012 東京都港区芝大門1-1-30
TEL.03-3578-1681 FAX.03-3578-1684

発行人 吉田 量年

美しさと安全性の両立
Beauty & Safety スリーエムからの提案です。

夜間や薄暮に多発するトラックなど大型車両の事故。車両の視認性低下が原因のひとつとなっています。夜間の事故防止には再帰反射材による車両マーキング(線状再帰反射材、輪郭再帰反射材、特徴等表示再帰反射材)が不可欠です。その効果は様々な研究報告により明らかになっています。わが国では「道路運送車両の保安基準」でその取付要件が規定されました。すでに欧米では多くの国々で取付要件が規定されており、義務化された国もあります。スリーエムではこの基準に適合した(※Eマーク付)3MTMダイヤモンドグレートTMコンスピクイティ反射シートと3MTM反射シート680Eシリーズを提供しています。また、スリーエムでは従来より車体のボデーをPR媒体として活用するフリートマーキングシステムの概念を提案し、スコッチカルTMフィルム、コントロールタックTMプラスフィルムおよびグラフィックスを提供してきました。トラック輸送の有効性、重要性が今後さらに見直される傾向にあります。今こそ安全性とPR効果がキーワードの車両マーキングとフリートマーキングの採用を検討する時期です。



3MTMダイヤモンドグレートTM
コンスピクイティ反射シート

3MTM反射シート680Eシリーズ

スコッチカルTM フィルム

コントロールタックTMプラスフィルム

事故減少に対するコンスピクイティ反射シートの有効性に関わる研究報告

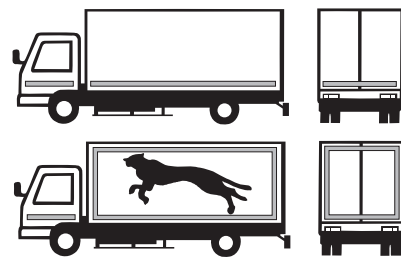
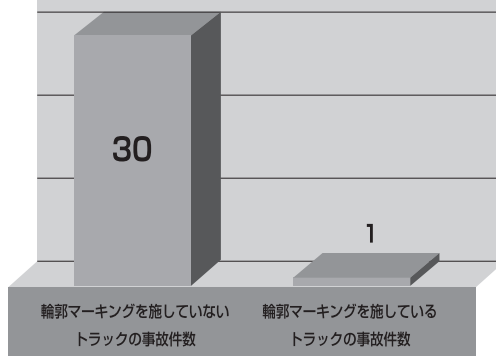
■ヨーロッパにおける研究報告

- 夜間や薄暮におけるトラックの側面・後面への衝突事故の約40%が「みられやすさ」(コンスピクイティ)不足により発生している。
- 再帰反射材の輪郭マーキングを施したトラックの事故件数は、施していないトラックの事故件数の約1/30だった。

■米国における研究報告

- 再帰反射材による車両マーキングは重量トレーラーの側面・後面への衝突事故を約30%減少させた。特に夜間では約40%減少させた。

■事故件数対比



※Eマークとは:国連の車両等の相互承認協定規則(ECE)R104の要件に適合した製品に付記することができるマーク。このマーク入りの製品は「道路運送車両の保安基準の細目を定める告示、別添105」に定める技術基準に適合している製品でもあります。

スリーエム ジャパン株式会社
トラフィック セーフティ・セキュリティ事業部

本社 〒141-8684 東京都港区北品川6丁目7番29号
電話 03-6409-3388
URL <http://www.mmm.co.jp>

